

わが国の進水記念絵葉書



平成 27 年 5 月

碓崎貞雄

表紙に掲げた絵葉書の説明

第1～3行に進水記念絵葉書を構成する完成予想図を描く絵葉書を示し、第4行にばら積船とタンカーの命名・引渡記念絵葉書を構成する完成予想図と完成写真の絵葉書を示す。

第1行：最初の進水記念絵葉書薩摩の完成予想図を画面一杯に描く絵葉書と

明治期から昭和10年頃にかけて完成予想図を画面の数分の一に描き、背景に船名、進水月、就航航路にちなむ図案を描く絵葉書を示す。左から

戦艦 薩摩 横須賀海軍工廠建造、明治39年11月15日進水、当時世界最大の戦艦。

貨物船 敦賀丸 三菱長崎建造、大正5年3月8日進水、7,289総トン/10,624重量トン、

当時の優秀船として準同型船も含めると三菱長崎、川崎神戸、三菱横浜も加わり33隻建造。

本船完成予想図の背景図案は敦賀の金ヶ崎神社の境内を描く。

貨客船 平洋丸 大阪鉄工(のちの日立櫻島)建造、昭和4年10月5日進水、9,816総トン/9,686重量トン、

進水では、対岸までの距離247m対本船垂線間長140.2mで河川進水世界記録樹立。

本船完成予想図の背景図案は進水月にちなむ秋の名月と七草を描く。

貨物船 興安丸 浦賀船渠、昭和11年6月3日進水、3,462総トン、

主機 浦賀開発の低圧タービン付往復機関搭載。同型機は39隻分、43基製造された。

本船完成予想図背景図案は左上に日本の櫻、右下に満州国の国花フジバカマを配し、

中間に海を象徴する伝統図案千波万波を描く。

第2行：昭和10年頃から15年頃にかけて完成予想図を画面一杯に描く絵葉書を示す。左から

貨物船 善洋丸 三菱横浜建造、昭和12年4月10日進水、6,441総トン/9,527重量トン、

多目的高速貨物船としての評価が高く、同型船7隻が建造された。

貨客船 あるぜんちな丸* 三菱長崎建造、昭和13年12月9日進水、12,755総トン/7,776重量トン、

主機関を始め全て国産の建造船は本船が初めて。わが国で最も船容の美しい船として知られる。

タンカー 黒潮丸 播磨建造、昭和13年12月18日進水、10,384総トン/14,960重量トン、

戦前のタンカーでは最大で、主機蒸気タービン、試運転速力20.69ノットの高速タンカー。

第3行：近年に新しく生まれた代表的な船種の完成予想図を描く絵葉書を示す。左から

自動車運搬船 Emerald Ace* 三菱神戸建造、平成24年3月9日進水、60,200総トン、

乗用車6,400台積、主機ディーゼル、航海速力20.65ノット。

コンテナ船 あめりか丸 三井玉野建造、昭和57年1月12日進水、32,500総トン、

コンテナ搭載数1,676TEU、主機ディーゼル、航海速力22.3ノット。

フェリー さんふらわあ つくば 三菱下関建造、平成9年10月18日進水、12,500総トン、

トラック216台、乗用車111台、旅客342名、主機ディーゼル2基、航海速力23ノット

LNG運搬船 尾州丸 川崎坂出建造、昭和58年8月16日竣工、100,296総トン、

タンク容積125,915 m³、主機タービン、航海速力19.3ノット。

第4行：近年の特徴である巨大船。前者が完成予想図を描く/後者が完成写真の絵葉書を示す。左から

ばら積船 健隆丸 日本鋼管津建造、昭和62年12月12日命名、107,900総トン/214,300重量トン、

主機ディーゼル、19,200馬力1基、プロペラ回転数61rpm。航海速力13.5ノット。

タンカー Osprey 住重追浜建造、平成11年1月14日命名。160,279総トン/301,963重量トン、

二重船殻構造、主機ディーゼル、28,350馬力1基、プロペラ回転数67rpm。航海速力16ノット。

わが国の進水記念絵葉書

はじめに

本論では、わが国の進水式で関係者に進呈され参観者に頒布されて進水式に彩りを添えてきた進水記念絵葉書について述べる。

わが国に先行した欧米の進水記念絵葉書は絵葉書専門店が販売を目的にニュース性の高い大艦巨船の進水式を撮影した写真版絵葉書であったが、1940年代に見なくなった。一方、わが国の進水する船の完成予想図を描く多色刷絵葉書とその船に因んだ多色刷りの創作図案を描いた絵葉書、またはブックレットの表紙よりなる進水記念絵葉書は、発行が減少しているものの明治 39 年から約 110 年も続いている。

目次

	頁
はじめに	1
1. 欧米の進水絵葉書と進水記念カバー	2
1.1 進水記念絵葉書	2
1.2 進水記念カバー	8
2. 進水記念絵葉書誕生前夜	10
2.1 絵葉書ブーム	10
2.2 進水絵葉書の伝来	13
3. 進水記念絵葉書の誕生	15
3.1 戦艦薩摩の進水記念絵葉書誕生の経緯	15
3.2 戦艦薩摩の進水記念絵葉書	17
4. 進水記念絵葉書の変遷	20
4.1 進水記念絵葉書の種類	20
4.1.1 造船所発行の進水記念絵葉書	20
4.1.2 絵葉書専門店発行の進水記念絵葉書	21
4.2 進水記念絵葉書の変遷	24
5. 進水記念絵葉書の図案	29
5.1 完成予想図を描く絵葉書	32
5.2 本船に関連する図案を描く絵葉書	34
5.3 ブックレットの表紙	38
6. 命名・竣工記念絵葉書の図案	40
結 び	41
謝 辞	41

第1章 欧米の進水絵葉書と進水記念カバー

1.1 欧米の進水絵葉書

世界最初の官製葉書が1869年にオーストリー＝ハンガリー帝国で発行されると、それまで封書郵便だけであったが直ぐに葉書の利便性が理解され、1870～1874年の間に西欧諸国に広く普及した。そして間もなく絵入り官製葉書も発行された。

次いで私製絵葉書の発行が1872年にドイツで、1873年にフランスで、1894年に英国で、1898年に米国と順次認可され、初めて絵葉書が作られたのは1870年の普仏戦争時のドイツと云われる。19世紀末から20世紀初頭にかけて絵葉書ブームとなり、各地で絵葉書の博覧会が開催され専門誌が発行された。

20世紀始めは主力艦の大きさ、搭載する大砲の口径、隻数が国の安全保障にかかわり、大型豪華客船が国の威信を示す時代で、大艦巨船の建造競争が先進諸国の間で行われ、その進水に人々の関心が高く進水式の絵葉書が発行されるようになった。次に例を示す。

図1.1.1は1900年5月にロシアのバルチック造船所で進水するペレスウェート級戦艦の3番艦 Pobjeda (常備排水量12,683トン)の進水絵葉書で、建造建屋から艦尾に白地に青のクロスを描く軍艦旗を翻して滑り出る写真である。

本級3艦は日露戦争でわが国と戦い、本艦と1番艦 Peresviet は旅順港内でわが国の陸上山越えの砲撃により沈座したが、後に浮揚・大改修されてわが戦艦周防と相模となった。2番艦 Oslibia はバルチック艦隊旗艦として日本海海戦で我が艦隊の集中砲火を浴びて撃沈された。



図1.1.1 ロシアの進水絵葉書(1900)

図1.1.2は1902年2月にニューヨークで進水したドイツ皇帝ヴィルヘルム二世注文のスクナ一型帆装ヨット Meteor (排水量420トン)の進水絵葉書である。

この進水式はドイツからヘンリー王子や官界・陸海軍の高位高官を迎え、米国からはルーズベルト大統領ほか多くの要人3,000人も参列する米国始まって以来の盛大な進水式であった。



図1.1.2 米の進水絵葉書(1902)

絵葉書左側の手彩色の写真はヘンリー王子のエスコートで大統領令嬢がシャンパン割りを行っている様子、同右側の写真は進水直後船台沖に浮かぶ本船である。

ところが、このシャンパンは皇帝が指定したドイツ産の発泡酒 ”シャウムウエイン・ライン

ゴールド”の筈が、何者かによってフランス産のシャンパン”モエ・エ・シヤンドン”に取換られていたのが発覚し、それを知った皇帝が激怒してドイツ帝国大使を本国召還する騒ぎにまで発展した後日談がある。

図 1.1.3 は、1904 年 4 月 6 日に米国ニューポート・ニュース造船所で同所始まって以来の大観衆を集めて行われたヴァージニア級戦艦 5 隻のネーム・シップ Virginia (常備排水量 14,948 トン)の進水記念絵葉書である。

本艦は 1898 年の米西戦争勝利により沿岸からグアム、フィリピンまで広がった行動範囲に対応した米海軍最初の航洋戦艦である。

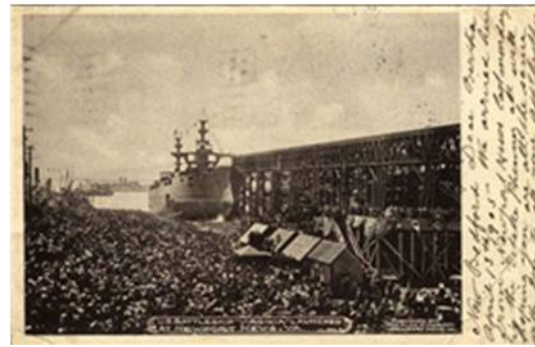


図 1.1.3 米の進水絵葉書(1904)

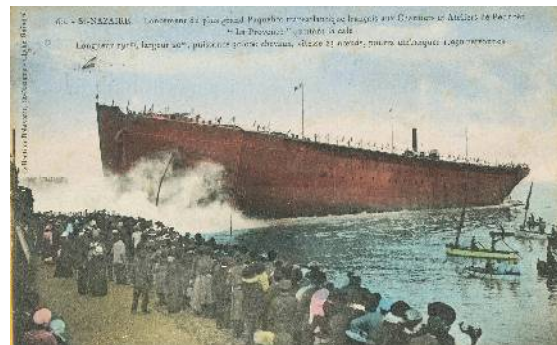


図 1.1.4 フランスの進水絵葉書 (1905)

図 1.1.4 は、1905 年 3 月フランスのサン・ナザールのペノエ造船所で多くの見物人が見守る中を進水する大西洋横断客船 La Provance (13,753 総トン)の進水記念絵葉書で、船台から離れる直前の写真である。右図は手彩色絵葉書である。当時の印刷技術では多色刷り印刷は時間と経費がかかるので、このような手彩色絵葉書が作成された。

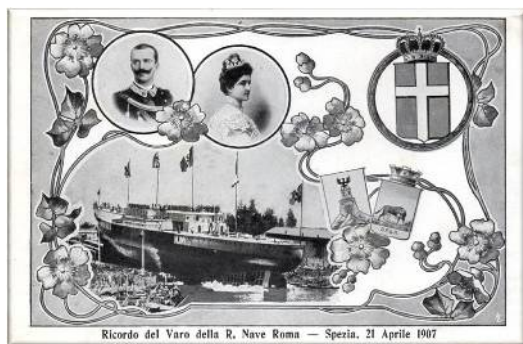


図 1.1.5 イタリアの進水絵葉書(1907)

図 1.1.5 は、1907 年 4 月にイタリアのラ・スペチア海軍工廠で進水したレジナ・エレナ級戦艦の第 4 番艦 Roma(常備排水量 13,000 トン)の進水記念絵葉書である。左下の進水する本艦の写真の周りに皇帝夫妻の肖像画、イタリア王国の紋章、ローマの紋章を配し、周囲をばらの花で飾っている。本絵葉書はイタリアの同時期の進水記念絵葉書に見られる装飾付き絵葉書の中で最も華やかなものである。

図 1.1.6 左は 1910 年 10 月に英ハーランド・アンド・ウォルフ造船所で進水した大西洋横断豪華客船オリンピック級 3 隻のネームシップ Olympic (45,324 総トン)の進水記念絵葉書である。裏面に“British Manufacture”とあり、観光土産的なものと思われる。画面は船台から滑り出る巨船の写真に手彩色したカラーである。

2 番船の Titanic は薄命であったが本船は 24 年の長寿を保った。本船は当時の最大船型である 1907 年就役の 32,000 総トンの大西洋横断高速客船 Lusitania と Mauretania の姉妹船と比較してすば抜けた巨大船であった。造船所は本船を建造するため 3 本の船台を 2 本に纏め、図に見る巨大なガントリー・クレーンを建設した。

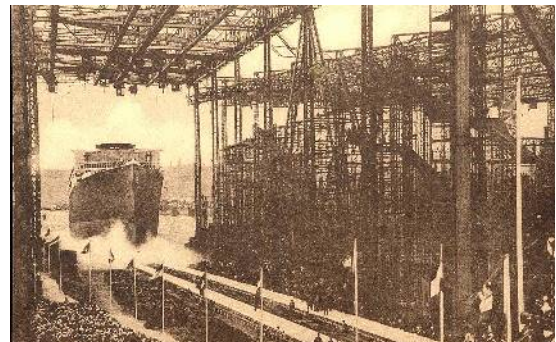
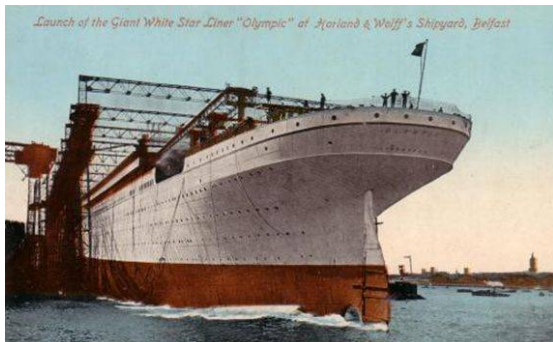


図 1.1.6 英、ドイツの進水絵葉書(1910 & 1914)

図 1.1.6 右は 1914 年 6 月にドイツのブロム・ウント・フォス造船所で進水した当時世界最大の大西洋横断豪華客船インペラートル級 3 隻の第 3 船 Bismarck (56,551 総トン)の進水絵葉書で、進水式にはドイツ皇帝ウィルヘルム II 世が臨席されビスマルク宰相の孫娘が命名者となった。

本船は艤装中に第 1 次大戦が勃発して工事中止となり、戦後未完成のまま賠償として英国の引渡され、Majestic と改名されて世界最大の客船として 1922 年 3 月に同造船所で竣工した。

図 1.1.7 は、新開発の 13.5 インチ連装砲塔 5 基を全て中心線上に並べた画期的な近代戦艦オライオン級 4 隻、その改良型キング・ジョージ V 級 4 隻をさらに改良したアイアン・デューク級 4 隻のネームシップ Iron Duke の進水絵葉書 2 種を示す。発行所は別々である。

本艦は 1912 年 10 月にポーツマス海軍工廠で進水した。左図は進水する本艦の写真版絵葉書である。右図は中央に滑り降りる本艦の、右に船台を離れんとする本艦の、左に船台沖に制止した本艦の写真を配し、背景は船台の周りを埋め尽くす大群衆の写真である。

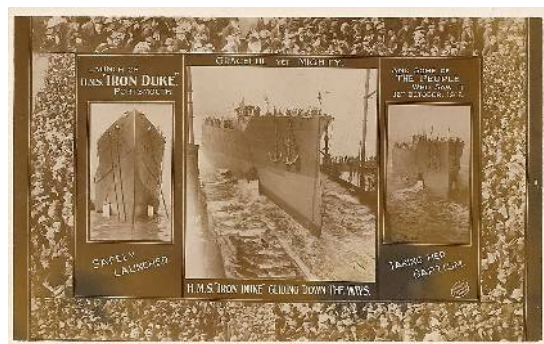


図 1.1.7 英の進水絵葉書(1912)

ここまで紹介したもので図 1.1.6 の左図を除いてすべて絵葉書専門店が販売目的で制作・発行したものであるが、図 1.1.6 の左図と次に紹介する図 1.1.8 は造船所制作のものである。

図 1.1.8 は 1912 年(明治 45 年)5 月 18 日にヴィッカーズ社バロー造船所で進水したわが国発注の巡洋戦艦金剛(常備排水量 27,500 トン)で、進水写真をそのまま焼き付けた印画紙版 3 枚一組の造船所制作進水絵葉書である。これには写真の下に書かれた説明文に 2 種類があり、文面から一般来賓と特別来賓への贈呈用と考えられる。

下の 2 枚は、本進水式に立ち会った黒崎陸軍中将がロンドンから日本の留守家族宛に出した実郵便の表と裏である。通信文は

本日金剛艦ノ進水式見事ニ举行セラレタリ、裏面ハ進水ノ景情ヲ撮影セシモノ、今ヨリ^{ロンドン}倫敦ト別レ順路セル^{パリ}巴里ニ向ウ。コノ撮影ハ僅カニ二時間許リニテ写真トナリナントス。

四十五年五月十八日午後二時半。

切手に押された郵便局消印の日付は英バロー局 1912.5.18、シベリヤを經由して東京外国郵便受入局の消印日付は 1912.6.10、地元局の消印日付は 45.6.11 となっている。

この通信文の中で黒崎中将も驚いているが、この絵葉書が進水後わずか 2 時間で渡されたことが注目される。この進水式には外交官や海軍関係者に川崎神戸や三菱長崎の技師も立ち会っており、三菱長崎で大正 5 年に進水した貨物船与禰丸や大正 13 年に進水した青函連絡船津軽丸で同じような印画紙版進水記念絵葉書が制作されている。



図 1.1.8 英で進水せる戦艦金剛の進水絵葉書(1912)

第 1 次大戦後の 1920 年代は深刻な不況となる。メディアの発達により進水式の詳細が写真つきで紹介されるようになる一方で、どれも似たような進水を題材とする写真版絵葉書への飽きなどから従来の進水絵葉書は殆ど見かけなくなる。

1930年に入るとドイツでヒトラー率いるナチ党が再軍備を始め、主力艦の進水式はナチ党のプロパガンダの一環として数千人の観客が動員されて盛大に行われ、進水絵葉書を多く見るようになるが、これらは主として造船所制作と思われる。

図 1.1.9 左は 1933 年 4 月にドイツのウィルヘルムスハーフェン海軍工廠で進水したポケット戦艦の第 2 番艦 Admiral Scheer (基準排水量 11,700 トン)の印画紙版進水絵葉書である。命名者は第一次大戦で活躍した故シェーア提督の令嬢である。

図 1.1.9 右は 1936 年 12 月にキール社ドイチェヴェルケ造船所で進水したナチ・ドイツ最初の戦艦シャルンホルスト級の第 2 番艦 Gneisenau (基準排水量 31,850 トン)の印刷版進水絵葉書で、総員起立してヒトラー総統の入場を迎えるシーンである。命名者は第一次大戦のフォークランド沖海戦で善戦するも撃沈された同名の装甲巡洋艦の艦長メルカー大佐の未亡人である。また本艦は進水後対岸の海浜公園の堰堤に艦尾をぶつけたことでも知られる。

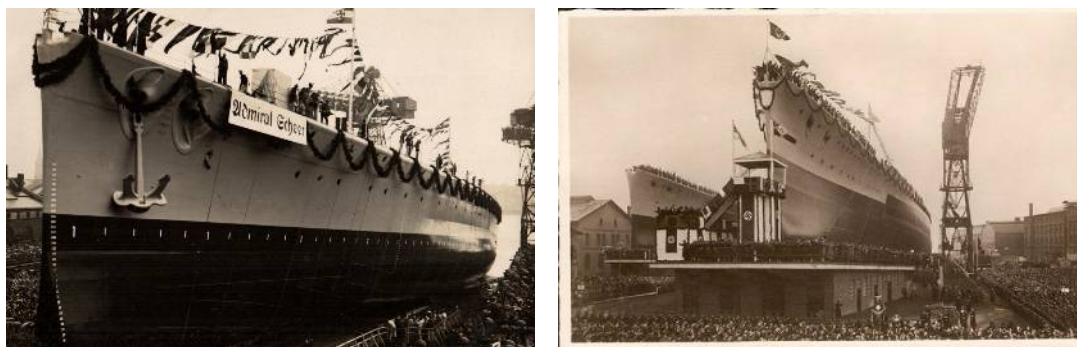


図 1.1.9 ナチ・ドイツの進水絵葉書(1933 & 1936)

図 1.1.10 は 1937 年 5 月にドイツのブロム・ウント・フォス造船所で進水した客船 Wilhelm Gustloff (25,484 総トン)の進水絵葉書である。本船はナチ党が勤労者の人気取りに建造したバルト海や北海をクルーズする定員 1,465 名のモノ・クラスの客船で、進水式はヒトラー総統が出席して盛大に行われた。本絵葉書に描かれているのは欧米の進水絵葉書には珍しい完成予想図で、国民に進水する本船の素晴らしさを PR するためと思われるが、わが国のものに比べると稚拙である。発行所は読み取れないが”Project・・・”とあるのでナチ党宣伝機関の可能性が高い。

本船は第 2 次大戦末期、東部戦線に取り残されたドイツ人を本国へ連れ帰るために、1945 年 1 月 25 日に民間人約 6,500 名、傷病兵を含む軍人 1,453 名、乗組員 173 名を収容して、ドイツ占領下のポーランド・グジニアを出港するが、ソ連潜水艦に雷撃され沈没して 7,000 名以上の犠牲者を出した。有名なタイタニックの犠牲者 1,503 名を遥かに超え、一船当たりの犠牲者としては、平時、戦時を問わず空前絶後の遭難記録である。

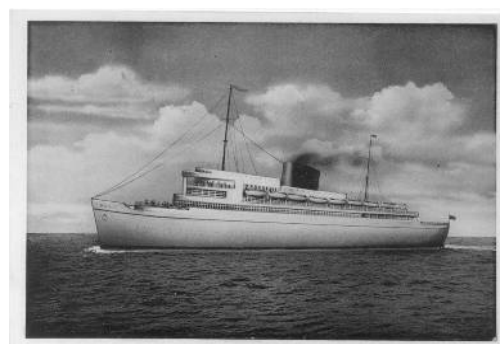


図 1.1.10 ナチ・ドイツの進水絵葉書(1937)

1939年に第2次大戦が勃発すると米国では戦意高揚のために進水絵葉書が発行された。この時期になると印刷技術の発達により多色刷の進水絵葉書が多くなる。発行所は造船所地元の絵葉書専門店である。

図 1.1.11 左は 1942 年 6 月に米のチャールストン海軍工廠で同日 2 隻連続進水したフリッチャー級大型駆逐艦 Bell と Stevens (基準排水量 2,100 トン)の進水絵葉書である。本級の建造は 9 カ所の造船所で行われ 2 年 8 ヶ月間で 175 隻が建造された。わが国の昭和 2~17 年の駆逐艦建造量は 89 隻であった。

図 1.1.11 右は 1843 年 4 月に米のガルフ・シップ造船所で進水したリバティ型戦時標準船(7,200 総トン、10,900 載貨重量トン)の進水絵葉書である。本造船所はアラバマ河に面し横滑り進水である。因みにリバティ型貨物船の公式建造記録は 2,751 隻、1,974 万総トンである。これに対して、わが国が戦争直前に世界 3 位を誇った船舶保有量は 2,736 隻、638 万総トン、戦時中の全船舶建造量(500 総トン以上)は 1,303 隻、337 万総トンであった。



図 1.1.11 米の進水絵葉書(1942 & 1943)

欧米における進水絵葉書は私製絵葉書の発行が認められた 19 世紀末から見かけるようになり、20 世紀に入ると 1920 年代にかけて、大艦巨船の盛大な進水式、滑り下りる巨体、浮かぶ巨体などの白黒写真版絵葉書が絵葉書専門店により商業目的で制作され発売された。装飾を施したものはイタリア以外は希少である。それとは別に、数は少ないが英国の造船所では上記と同じ画面の印画紙版絵葉書を制作して進水式直後に来賓に贈呈した。

1930 年代になると、ドイツを除く欧米の進水絵葉書は殆んど見られなくなり、ドイツでナチスの宣伝色の強い白黒の写真版進水絵葉書が見られ、第 2 次大戦が始まると米国で戦意高揚のための多色刷り写真版進水絵葉書が見られる。

第 2 次大戦後は国や業界が行う海運・造船の特別なキャンペーンなどを除くと、進水絵葉書は殆んど見られなくなった。

わが国の主流である造船所が制作する多色刷りの進水記念絵葉書は、これら欧米の進水絵葉書の影響を受けることはなかった。その一方で少数ではあるが後述するように関係者へ進呈用に、昭和初期まで欧米のそれとほぼ同じ白黒写真版進水記念絵葉書や印画紙版進水記念絵葉書が制作された。

1.2 進水記念カバー

郵趣の世界に初日カバーなるものがある。これは、横長封筒の左側に新切手由来の図案を描き封筒の右側には宛先を書いて、新切手発行初日に郵便局で新切手を購入・貼付し郵便日付印を押して新切手発行の記念とするもので、1900年代初めに米国の切手商が始めたと云われる。1920年代後半から世界に拡がり、現在では郵政当局までも制作・発行する国もある。

写真による画一的な進水絵葉書に物足りないコレクターが、この初日カバーに着想を得て封筒の左半分に進水する艦船に由来する図案を描き、右半分に宛名を書いて進水当日に切手を貼り、投函して郵便日付印を押す進水記念カバーを案出し、1930年頃から途絶えることなく現在まで制作されている。制作は販売を目的とする専門業者である。進水絵葉書が一般の人を対象としたのに対しコレクターが対象である。次に例を示す。

図 1.2.1 左は、1933年2月25日に米ニューポート・ニュース造船所でフーバー大統領夫人の命名により進水した航空母艦 **Ranger** (基準排水量 14,500 トン) の進水記念カバーである。左側にガントリー・クレーンの下を進水する本艦を描き、その上に「米海軍で空母として最初から計画された艦」、下に「米国軍艦レンジャーの進水を記念して」「ニューポート・ニュース造船所で1933年2月25日、11時30分進水」の記述がある。右側上の郵便日付印は「ヴァージニア州、ニューポート・ニュース、1933年2月25日午前11時」となっている。なお、この進水式は禁酒法の時代とあって、シャンパンの代わりにグレープフルーツ・ジュースが用いられた。



図 1.2.1 米艦艇の古い進水記念カバー(1933 & 1938)

図 1.2.1 右は、1938年7月28日に米フィラデルフィア海軍工廠で進水したバグレイ級駆逐艦 20 隻の 16 番艦 **Rhind** (基準排水量 1,500 トン) の進水記念カバーである。左に本艦の完成予想図が描かれ、下側にカバー制作者名「Philadelphia Navy Yard Development Association」と記述され、右上に国債購入キャンペーン付の当日丸型日付印が押されている。

図 1.2.2 左は、1985年11月2日に米ニューポート・ニュース造船所で進水したロサンゼルス級原子力潜水艦 62 隻の 36 番艦 **Oklahoma City** (水上排水量 6,255 トン、水中排水量 7,102 トン) の進水記念カバーである。カバー左側にオクラホマ市にある州議事堂とその敷地内に立つ石油採掘樁群、右側に本艦の艦名とシルエット、小さく命名者の名が書かれている。郵便日付印は「Christening of The USS Oklahoma City」なる文言付の造船所構内郵便局特別印である。



図 1.2.2 米艦艇近年の進水記念カバー(1985 & 1996)

図 1.2.2 右は、1996 年 9 月 7 日に米ニューポート・ニュース造船所で命名され、同月 13 日に進水したニミッツ級原子力航空母艦 10 隻の 8 番艦 Harry S.Truman (満載排水量 102,000 トン)の進水記念カバーである。本級は 5 番艦 Abraham Lincoln 以降から排水量が 102,000 トンとなり、史上初の 10 万トンを超える軍艦となった。郵便日付印には本艦のシルエットが描かれている。

図 1.2.3 左は、1964 年 6 月 13 日にドイツ・キールのホヴァルトツヴェルケ造船所で進水した原子力鉱石運搬船 Otto Hahn (16,871 総トン)の進水記念カバーである。造船所内郵便局の当日特別日付印が押印されている。

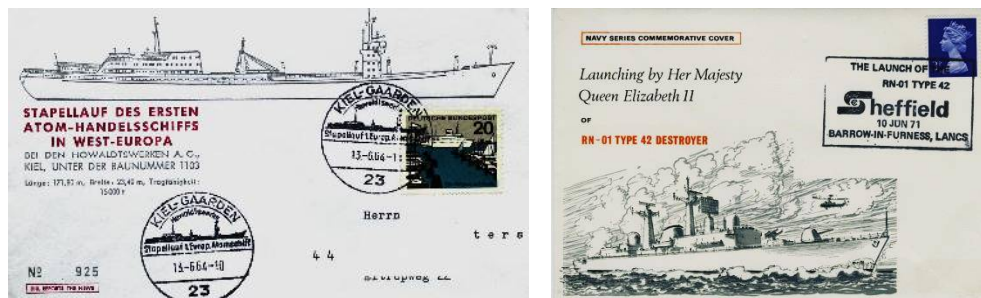


図 1.2.3 ドイツ原子力船オットーハーンと英ミサイル駆逐艦シェフィールドの進水記念カバー

図 1.2.3 右は、1971 年 6 月にヴィッカーズ社バロー造船所でエリザベス II 女王陛下の命名により進水したミサイル駆逐艦 Sheffield (基準排水量 3,500 トン)の進水記念カバーである。封筒の左下に航走する本艦を描き、上に女王陛下により進水したと記されている。右上に貼った切手には艦名、進水年月日、造船所名を刻んだ特別日付印が押されている。本艦は英国初の全ガスタービン駆逐艦 Type42 型の第 1 番艦として建造されたが、1982 年にフォークランド戦争の緒戦で不幸にもエグゾセ対艦ミサイルが命中して戦没した。

これらの進水記念カバーはわが国の進水記念絵葉書に比べると稚拙であるが、そこに手作り感がありデザインがあって、その味わいがコレクターに根強い人気となって現在も作り続けられている。

第2章 進水記念絵葉書誕生前夜

明治30年後半になると、わが国の文化に根ざした独特の絵葉書文化が開花する中、明治38年に英国で進水した戦艦香取の英国発行の進水記念絵葉書が国内で復刻販売された。

2.1 絵葉書ブーム

わが国では明治4年(1871)に初めて郵便切手が発行され、次いで明治6年に官製葉書が発行された。その紙面の端には次のような興味深い文言が印刷されていた。

他見ヲ憚^{おそ}カラス又上包ヲ要セサル短文通ヲ低税ニテ往復ノ便宜ヲ開クヘキ為メ
之ヲ各地郵便役所及ヒ取扱所ニテ可売下事

始めの頃は官製はがきに絵を印刷していたが、明治33年(1900)9月1日に私製葉書発行が認可され、同年10月10日に私製絵葉書発行が認可されると、絵画、デザイン、写真により多岐にわたるジャンルの絵葉書が作られるようになった。

図2.1.1は有名画家による美人画の例で、明治38年発行の美人絵葉書「舞姿」¹で、タトウ一包紙付きである。図左上は山本春挙、右上は今尾景年、左下は鈴木松年、右下は竹内栖鳳の画で、色数を多く使った木版画で刷り上がりが美しい。

これらに新聞社による高額な懸賞募集、各地での大規模な交換会、専門書の出版などがあり、絵葉書を掌中の玩



図2.1.1 美人絵葉書「舞姿」

¹ 便利堂2013年発行「明治の京都 てのひら逍遥」より引用



図 2.1.2 新聞社懸賞当選作品「ベースボール」

として愛でる絵葉書ブームとなった。

明治 38 年に 4 月に大阪毎日新聞が開催した懸賞募集は当選賞金 1 等 100 円、総額 300 円と云う破格のものであった。この時、大阪博物場の百畳敷き大広間で 3 日間開催された原画展は「実にすまじき人出で、身動きできぬほどの大雑踏であった」と新聞記事は伝えている。

この原画展で京都の絵葉書専門店が開催した交換会では、交換兼接待掛として京祇園の名妓 4 名をよび、3 日間で 1 万通以上の交換申込があったとい

う。

図 2.1.2 は明治 38 年大阪毎日新聞懸賞四等当選作品の入ってきたばかりの野球を画題にした、佐々木望画「ベースボール」²である。当時は欧米から新しく伝来したスポーツにも関心が深く、特に野球は人気が高かった。

このような中で絵葉書の専門書も出版されて絵葉書文化が開花した。蒐集家に夏目漱石、尾崎紅葉、大町桂月などの著名人の名がみられ、これらの絵葉書は国内の美術館やボストン美術館に多く所蔵されている。

明治 35 年 6 月に通信省はわが国最初の官製の記念絵葉書「万国郵便連合加盟 25 年記念」を発行した。明治 37 年に日露戦争が始まると、通信省は戦意昂揚のため 2 年間に 8 回 47 種類の写真版日露戦役記念絵葉書を発行したが、勝ち戦でしかも画像情報が少ない時代ということもあって熱狂的な人気を呼んだ。発行日の郵便局について次のような新聞記事が残されている。

²便利堂 2013 年発行「明治の京都 てのひら逍遥」より引用

明治 37 年 9 月の第 1 回発行、絵葉書 6 枚組、売価 12 銭の発行日には、神田郵便局に群衆が押しかけ怪我人が出て騎馬警官が出動する騒ぎになった。その一方で、売価 12 銭の絵葉書にその場で 50 銭のプレミアムが付いた。かけそばが 2 銭から 2 銭 5 厘の時代である。



図 2.1.3 日露戦役記念絵葉書第 4 回 [旅順港の部]

図 2.1.3 に明治 38 年 10 月の第 4 回発行「旅順口の部」絵葉書 3 枚組、売価 6 銭を示す。図左上が説明書、右上が「松樹山砲台の爆破」、左下が乃木將軍と旅順ロシア軍司令官ステッセル將軍の有名な「水師營の会見」、右下が「東鷄冠山における砲煙中の突貫」を描く絵葉書である。

図 2.1.4 に同 39 年 5 月の最終回発行、絵葉書 3 枚組、売価 20 銭を示す。左上が「陸軍凱旋觀兵式」、右上が「海軍凱旋觀艦式」、左下が「伊勢大神宮と靖国神社」を描く絵葉書である。



図 2.1.4 日露戦役記念絵葉書最終回

この最終回の発行は売価 20 銭の高額にもかかわらず、江戸橋の郵便局(現在の中央郵便局)内で先を争う群集が喧嘩を始め、警官が駆けつけても怪我人が続出、止む無く販売を中止した。すると買えなかった群衆が窓ガラスを割る始末で、郵便局を完全に閉鎖してやっと騒ぎが収まったと新聞が報じている。

東京市内の絵葉書取扱数を見ると、明治 36 年に 558 万に達していたが、同 37 年に 676 万、同 38 年には 1455 万と 3 倍に跳ね上がってブームは最高潮に達した。

当時有名な大阪朝日新聞の大江素天は、その著書の中で次のように述べている。

私たちは毎日のように店頭に押しかけて月給袋の底をはたいたものである。はたき足りない時は無論借金である。

後に述べる進水記念絵葉書との関連で見ると、美人絵葉書には写真版だけでなく画家が画面一杯に多色刷りで美人を描くのが多く見られ、記念絵葉書や名所旧跡の写真版絵葉書で対象を絵葉書の面積の約半分とし、余白を名所旧跡に係る和歌や伝説などに由来する図案で飾ったものが多く見られること、絵葉書複数枚によるセットではタトウや封筒などの専用の包紙に納められていることが注目される。

2.2 進水絵葉書の伝来

わが国では幕末から大型艦は全て欧米に発注してきた。日露間の緊張が高まる中でロシアの戦艦の増強計画に対抗すべく、明治 35 年に調印された日英同盟を頼って、明治 36 年に工期 27 カ月の短納期で戦艦香取(常備排水量 16,200 トン)と戦艦鹿島(常備排水量 16,660 トン)が英国のヴィカース社とアームストロング社に発注された。

明治 38 年 7 月 4 日、英国ヴィカース社バロー造船所で行われた戦艦香取の進水式には有栖川宮ご夫妻が臨席された。その時には同年 5 月 27・28 日の日本海海戦でバルチック艦隊に大勝したニュースは世界に知られており、英国では朝野をあげて同盟国日本の戦勝と本艦の進水を盛大に祝った。

図 2.2.1 は現地の The Illustrated London News の全ページ(A3 版相当)を飾った Painter's impression である。

また、この進水式の模様を遠く離れた米国のニューヨーク・タイムズ紙は、

これまで英国が建造した最強の戦艦である香取が 10,000 人の大観衆が見守る中、有栖川宮妃殿下が命名・支綱切断を行い、薬玉が開き紙吹雪

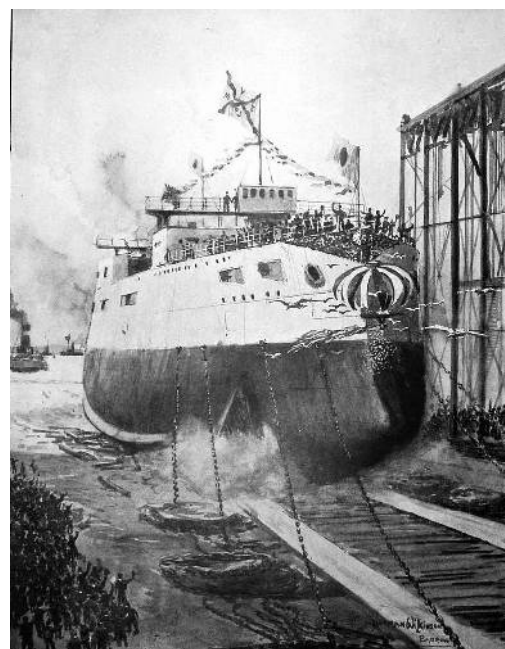


図 2.2.1 英国で進水する戦艦香取

の中を平和と善意の象徴である鳩が舞い華やかに進水した。
と報じ、式後の祝宴における有栖川宮のスピーチも詳しく報道している。

この時、現地の絵葉書専門店2社が図2.2.2に示す本艦の写真版進水絵葉書を各1部発行した。
いずれも滑り降りる本艦の遠景写真である。

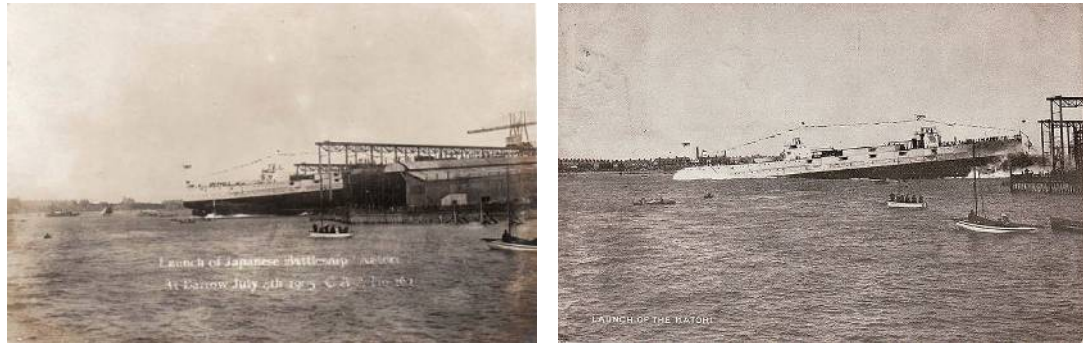


図2.2.2 英国で発行された戦艦香取の進水絵葉書

図2.2.2の右図と全く同じ絵葉書を東京三越呉服店(現在の三越百貨店)が国内で発行した。これを図2.2.3に示す。絵葉書の画面上中央に「明治三十八年七月四日」「軍艦香取進水記念」と2行に分けて記述し、下側の通信文を書くためのスペースの左に三越の社章と「三越呉服店謹製」の文字が見える。

これがわが国最初の進水記念絵葉書と云われるが、どのような経緯で国内で発行されたのかも含めて発行期間・発行場所などの詳細は不明である。

手元にある絵葉書の郵便消印を見ると、日付が早いものは明治38年10月、遅いものは翌39



図2.2.3 東京三越呉服店が発行せる
戦艦香取の進水絵葉書

年5月28日付の日本海海戦戦勝一周年を記念する特殊通信日付印が押印されたものがあり、郵便局名に東京、佐世保、大分などがある。

これから本絵葉書は長期間にわたり全国で販売されたことが判り、「進水絵葉書なる絵葉書」の存在が国民に知られたと思う。

しかし、この1年後に誕生する我が国の主流である造船所発行の多色刷進水記念絵葉書へ影響は全く見られない。

第3章 進水記念絵葉書の誕生

わが国で発行された進水記念絵葉書の中で初期に発行され、後の進水記念絵葉書の模範となった戦艦薩摩の進水記念絵葉書誕生の背景・経緯と発行された進水記念絵葉書を見る。

3.1 戦艦薩摩の進水記念絵葉書誕生の経緯

日露戦争が明治37年2月8日に勃発して、4月13日に旅順港を基地に戦艦7隻を擁するロシア艦隊の旗艦ペトロパヴロフスク(常備排水量10,960トン)がわが軍の敷設した機雷に触れて沈没するが、5月15日には旅順ロシア艦隊を牽制して黄海をパトロール中の戦艦八島(常備排水量12,320トン)と初瀬(常備排水量15,000トン)がロシアの機雷に触れ沈没した。

当時は戦艦の隻数が海戦の勝敗を決めると考えられていた時代である。わが国が保有する戦艦6隻のうち一挙に2隻を失う事態は、海軍のみならず全国民も震撼する大事件であった。

明治期初めから日露戦役までの大型艦整備状況を図3.1.1に示す。当時の海軍工廠の工作機械は全部蒸気動力で電気動力、圧縮空気動力のものは皆無で、現場作業はタガネと手ハンマー、ハンドドリルであった。

日露戦役までの国内最大建造艦は、横須賀海軍工廠の海防艦橋立(明治24年進水、4,500トン・工期74ヵ月)、呉海軍工廠の巡洋艦対馬(明治34年進水、3,500トン・工期28ヵ月)、横須賀海軍工廠の巡洋艦新高(明治35年進水、3,500トン、工期25ヶ月)で、大型艦は全て海外に依存し建造経験がなかった。

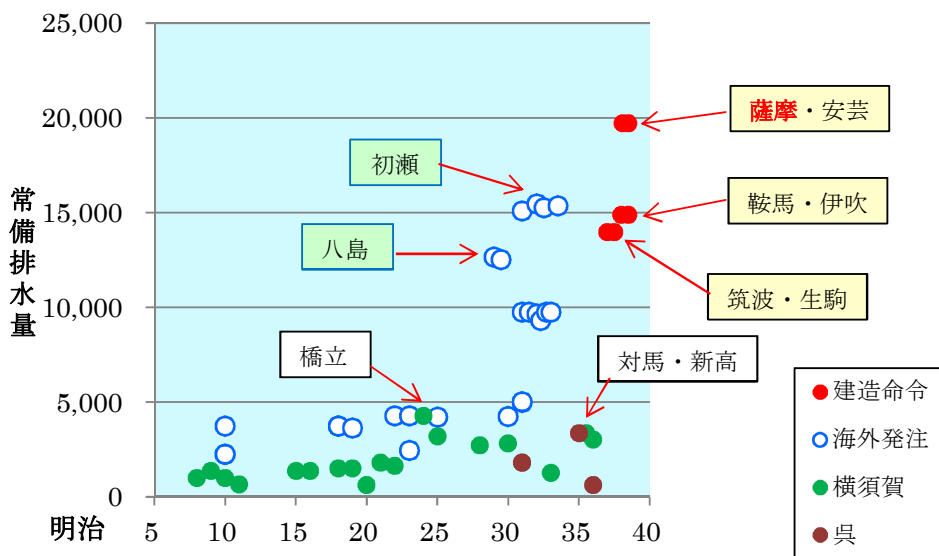


図3.1.1 明治期大型艦整備状況(日露戦役まで)

これらの事情から喪失した戦艦の代りを国内で急速建造することは常識的に不可能であるが、海外調達は交戦状態にあるがため不可能である。是が非でも国内で、しかも急造せねばならぬ。

ここにおいて帝国海軍は非常な決心を以て、明治37年6月に常備排水量13,970トン装甲巡洋艦筑波(工期24ヵ月)と生駒(工期30ヶ月)の建造を呉海軍工廠に建造を訓令した。

さらに戦艦 12 隻を含む 40 隻編成のバルチック艦隊が本国出港の報に接すると、38 年 1 月に世界最大の常備排水量 19,700 トン戦艦薩摩と安藝、常備排水量 14,870 トン装甲巡洋艦伊吹と鞍馬の建造を横須賀海軍工廠と呉海軍工廠に建造を訓令し、先ず戦艦薩摩の完成に全力を注いだ。

両海軍工廠は未曾有の国難に国民の負託によく応え工程を消化した。この状況について呉海軍工廠で筑波と生駒の建造にたずさわった八木彬男は回顧録の中で「何事をなすにも初めての試みであり凡てのことに手違いをきし易く一難去ればまた一難来るといふ有様で千辛万苦の中で建造が進められた。所謂悪戦苦闘の下に険坂峻路をよじ登りつつ進むのであります」と述べているが、この状況は横須賀海軍工廠でも同じであったと思われる。

大変な苦勞を経て戦艦薩摩が明治 39 年 11 月 15 日に進水式を迎えることになった時

明治 38 年 5 月 27,28 日に 日本海海戦でバルチック艦隊に一方的な勝利

明治 38 年 10 月 14 日に 日露講和条約締結により我が国の戦勝が確定

本艦は国産最初の戦艦で、しかも世界最大の戦艦

明治天皇自ら皇太子殿下と皇族方と臨御され、内外の貴顕高官淑女を招待し、参観者 6 万人が集まるわが国始まって以来の最も盛大な進水式となった。図 3.1.2 は明治 49 年 12 月に発行された風俗画報の 2 頁大(B4 版相当)折込みの図である。



図 3.1.2 戦艦薩摩の進水式

“わが国には祝事に赤飯を炊いてお世話になった方に配り、喜びを分かち合う習慣がある”

横須賀海軍工廠の外郭団体で造船マン達の集まりである職工共済会が、絵葉書ブームにあやかって本艦進水の記念品として進水記念絵葉書を作成して、進水式当日に来賓に進呈すると共に、構内 2 か所および正門近くの水交社—海軍将校クラブで参観した希望者に頒布した。

3.2 戦艦薩摩の進水記念絵葉書

この進水式で頒布された進水記念絵葉書を図 3.2.1 に示す。

図の左上段は署名入り油彩による画面一杯に朝焼けを背景に堂々と波を蹴立て進む重量感あふれる本艦の完成予想図を描く絵葉書である。

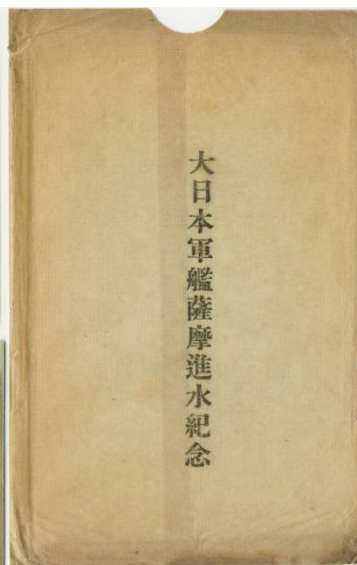
図の左中段は、船台上で建造中の本艦を主題にして、左上の四角形に船台上で建造中の本艦艦首部の、中央の菱形に艦中央部の写真を配し、右下の四角に本艦の艦名、起工日、進水日、横須賀海軍工廠名を記して、余白に吉兆の赤色に進水月の菊月に因む大輪の菊の花びらを描く絵葉書である。

図の左下段は『甲鉄艦の発達』の表題付きで、欧米先進国に追いついたと造艦能力を誇示する絵葉書である。本艦(常備排水量 19,682 トン)を中央に、右下に英国で明治 10 年に進水し当時わが国最大であった装甲艦扶桑(常備排水量 3,776 トン)の、左上に英国で明治 33 年に進水しわが国最大の戦艦三笠(日本海海戦の旗艦、常備排水量 15,382 トン)のほぼ大きさに比例したシルエットを示して本艦の大きさを誇示し、それぞれに建造造船所、進水年月日、艦の長さなどを記載、余白に進水月に因む中小の黄色や白の菊に曲水を描いた絵葉書である。中段と下段の絵葉書では、菊花と曲水の図は裏側からの型押しで立体的に盛り上がって見える。



これらは進水する巨体を見て想像することが難しい完成時の姿やどのように造られるか、造船技術の長足の進歩、主力艦の急速な大型化などを参観者に分かり易く解説し誇示したものである。

図の右は本記念絵葉書 3 枚をおさめる専用の半透明の薄紙封筒で、全体に 0.4 mm ピッチの細かい格子



の型押しがしてある。経年変化しているが白色ないし淡黄色であったと推定される。



図の左側の上段と下段の絵葉書の右上に押印された大型丸印は、逓信省が本艦の進水を国家の慶事として制作した期間限定の特殊通信日付印(郵便日付印)である。

図 3.2.1 戦艦薩摩の進水記念絵葉書

このような、多色刷の「完成予想図を描く絵葉書」、「本船に関連する創作図案を描く絵葉書」と、それらを専用の包紙で包み、造船所が参観者に進水記念品として頒布するのはこの時が最初であった。横須賀海軍工廠は当時のわが国造船界をリードするトップリーダーである。この進水の喜びを分かち合う進水記念絵葉書は他の海軍工廠や民間造船所の共感を呼び、各造船所でも多色刷りの2種類の絵葉書と専用封筒からなるスタイルの進水記念絵葉書を制作し、進水式で参観者に頒布するようになった。

この3枚組の他に使い分けは不明であるが、数種の進水記念絵葉書が発行された。

同じ薄紙専用封筒を使用した図 3.2.2 に示す多色刷2枚組が存在する。左は図 3.2.1 中段に示した絵葉書と図案は同じで色違い、右は図 3.2.1 中段に示した絵葉書と同じである。



図 3.2.2 戦艦薩摩の色違い進水記念絵葉書

これら多色刷の進水記念絵葉書の他に、工廠の職工共済会から薄紙専用封筒付写真版2枚組の進水記念絵葉書も発行された。これは進水式から数日を経て関係者に贈呈したと考えられるが詳細不明である。これらを図 3.2.3 に示す。なお、これに制作者や発行年月日は不明の明治40年以降に制作された復刻版がある。

図左は満艦飾をして進水式開始を待つ本艦と手前が式台である。式台は大進水式とあって皇族方や海軍将官が並び立つために手前左まで広がっている。画面上端に「大日本軍艦薩摩進水記念 其一」と”Souvenir of Launching Ceremony of Japan Warship Satuma”の記述がある。図右は港内の汽船が一斉に汽笛を鳴らして祝意を表わす中を船台から滑り下りる本艦で、画面上端の記述は同じで其一が其二に代わっている。



図 3.2.3 戦艦薩摩の写真版進水記念絵葉書

絵葉書ブームの中で世紀の大進水式である本艦の進水記念絵葉書は求める人が多かったと思われる。工廠構内で進水式当日しか入手できない横須賀海軍工廠発行記念絵葉書に代わって、前述の図 2.2.3 に示した戦艦香取の進水絵葉書を復刻発売した東京三越呉服店を始め、他の民間絵葉書専門店業者 3~4 社も参入して多色刷記念絵葉書を発行した。

図 3.2.4 は東京三越呉服店発行の 1 枚組進水記念絵葉書である。月桂樹の冠を頂く勝利の女神が波穏やかな海に本艦を浮かべんと捧げている。その足元には進水月の菊月に因む小菊が咲き乱れ、左下に「軍艦薩摩進水式記念」、「明治 39 年 11 月 15 日」、「東京三越呉服店謹製」の記述がある。



図 3.2.4 戦艦薩摩の
進水記念絵葉書
[東京三越呉服店発行]

図 3.2.5 は日本画家斉藤松洲のデザインによる春陽堂発行の本艦進水記念絵葉書である。図左と中央が絵葉書で、図左の絵葉書右上の肖像画は明治天皇で、左は本艦の艦首から見た完成予想図である。図中央は斬新な純粹図案で、郵便消印に似せた朱印に薩摩進水記念、39-11-15、春陽堂章の文字と図の上側に緑色で ”The Commemoration of Launching the battle-ship SATSUMA” “tons 19,150” の記述がある。図右は普通紙専用封筒である。



図 3.2.5 戦艦薩摩の進水記念絵葉書 [春陽堂発行]

以上、明治 39 年 11 月 15 日に進水した戦艦薩摩の進水記念絵葉書を少し詳しく紹介した。これらの絵葉書はその後の進水記念絵葉書の模範となった。

これらはわが国独特の文化を背景に造船所が進水式の自祝のために制作し進水式で関係者や参観者に頒布するもので、このような例は世界になく、発行隻数が激減しているものの今日まで 110 年も続いている。

第4章 進水記念絵葉書の変遷

戦艦薩摩の進水記念絵葉書から現在の進水記念絵葉書に至る変遷について述べる。

4.1 進水記念絵葉書の種類

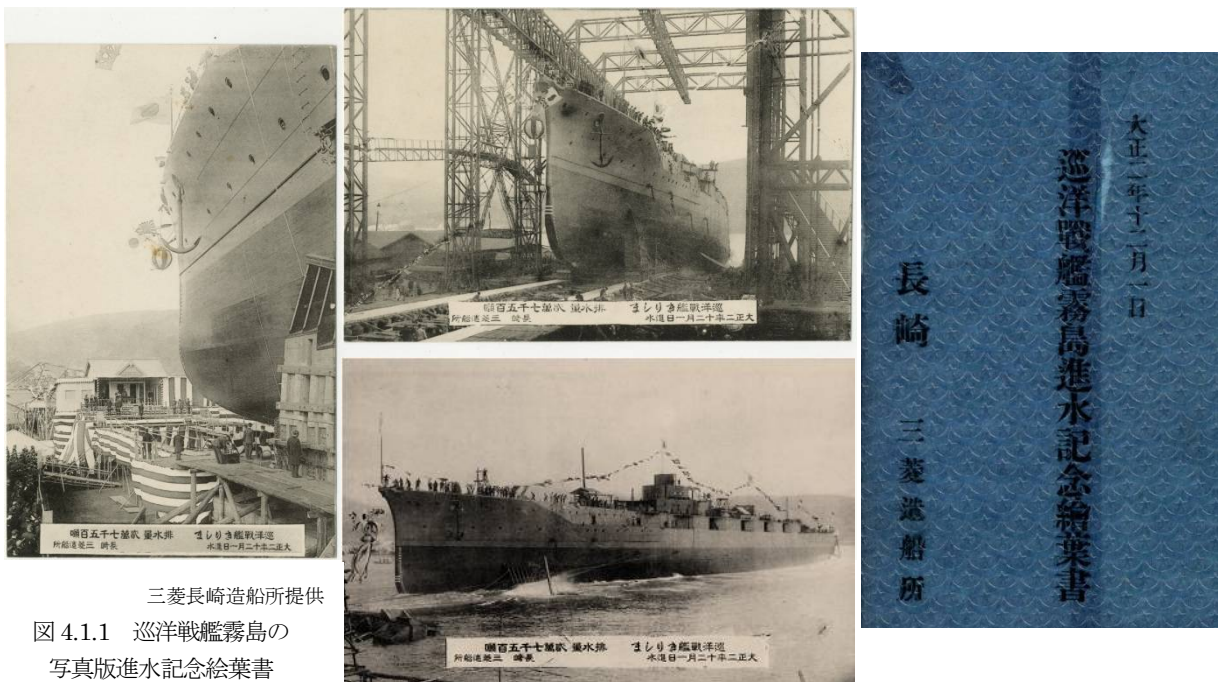
現在は造船所が発行する多色刷り絵葉書だけであるが、第2次大戦前には発行隻数は少ないが次に述べるような絵葉書が存在した。

4.1.1 造船所発行の進水記念絵葉書

多色刷り絵葉書の他に発行隻数は少ないが、進水式の式台や滑下りる船体を撮影した写真を印刷した印刷版絵葉書と、写真画像を直接焼き付けた印画紙を絵葉書にした印画紙版絵葉書がある。

印刷版絵葉書は戦艦薩摩でも図3.2.3に示したが、海軍工廠・民間造船所合計で約30隻について発行された。この絵葉書は関係者にとっては盛大な進水式の模様を記録する貴重な記念の品で、進水した後に関係先に贈呈したものと思われる。

図4.1.1は大正2年12月に三菱長崎で進水した巡洋戦艦霧島(常備排水量27,500トン)の造船所発行の写真版進水記念絵葉書で、図の左と中央上・下の3枚が絵葉書で、右が薄紙専用封筒である。図左は船側から艦首方向を見て艦首の薬玉や進水式台が見える。式台をルーペで見ると天皇陛下のご名代^{かんいんのみやことひと}閑院宮載仁殿下が玉座に立たれ、その斜め前で齋藤実^{まこと}海軍大臣が命名書を読み上げている式の真最中である。中央上は艦が滑り出した直後で薬玉はまだ開いていない。中央下は薬玉が開き艦が滑走台をまさに離れんとし、複数の制動索がピンと張っているのが見て取れる。なお造船所制作の多色刷り記念絵葉書も発行されている。



三菱長崎造船所提供
図4.1.1 巡洋戦艦霧島の
写真版進水記念絵葉書

印画紙版絵葉書は 1.1 項で述べたように、英国に発注され明治 45 年に進水した戦艦金剛で、当地に派遣されていた海軍工廠の造船官や三菱長崎・川崎神戸の技師が造船所贈呈の印画紙版進水記念絵葉書を見て、わが国にもたらしたものと推測される。しかし、見る限りでは海軍工廠の建造艦には見られず、三菱長崎の 2 隻と大阪鉄工の 2 隻に見るのみである。これらは進水式直後の祝宴で招待者に贈呈されたものと思われる。

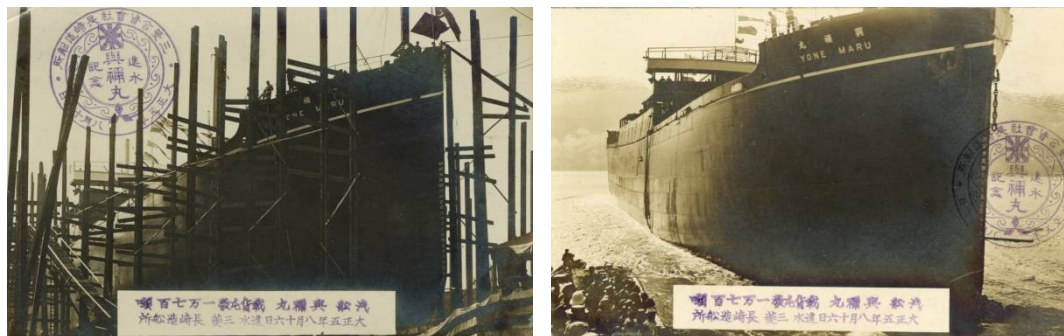


図 4.1.2 貨物船与彌丸の印画紙版進水記念絵葉書

図 4.1.2 は大正 5 年 8 月に三菱長崎で進水した貨物船与彌丸(10,700 重量トン)の 2 枚組進水記念絵葉書で、図左は進水を待つ本船の、図右は滑り降りる本船である。なお本船では多色刷り進水記念絵葉書は発行されてない。本船は同所で建造された豊岡丸級貨物船 9 隻の 1 隻で、建造は第 1 次世界大戦の造船ブームの最中で船主支給材料が遅れで工程確保に難渋したが、引渡直後にノルウェー船主へ転売された。

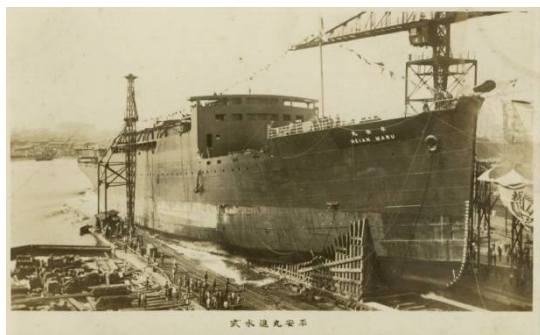


図 4.1.3 貨客船平安丸の印画紙版進水記念絵葉書

図 4.1.3 は昭和 5 年 4 月に大阪鉄工で進水した貨客船平安丸(11,616 総トン、船客 1 等 76 名、2 等 69 名、3 等 185 名、試運転最大 18.38 ノット)の 1 枚組進水記念絵葉書で、造船所の多色刷り 2 枚組進水記念絵葉書も発行された。図は薬玉が開き進水する本船の写真である。

本船は姉妹船の横浜船渠建造の氷川丸、日枝丸と共に政府のシアトル線命令航路代替船補助を受けて建造された。

4.1.2 絵葉書専門店発行の進水記念絵葉書

第 2 次大戦前は絵葉書、特に記念絵葉書が好まれ、かつ大型艦の進水式は国家の慶事とされ国民の関心が高かった。それにもかかわらず造船所発行の進水記念絵葉書は進水式の参観者しか入手できないので、進水式に行けなかった人々の需要に応じて複数の絵葉書専門店が競って発行した。これらは造船所発行に比較して装飾性が強い。商船でもニュース性の高いものは造船所所在地の絵葉書専門店が発行した。これらには多色刷と写真版がある。

軍艦では、横須賀や呉の海軍工廠と川崎神戸や三菱長崎で明治期から昭和 5 年にかけて進水した戦艦 12 隻、巡洋戦艦 3 隻、装甲巡洋艦 1 隻、巡洋艦 4 隻、空母 1 隻の計 21 隻について絵葉書専門店などの進水記念絵葉書の発行が見られる。しかし昭和期に入ってワシントン軍縮条約が締結され大型艦の建造が制限されると、昭和 5 年に横須賀海軍工廠で進水した巡洋艦高雄を最後に見られなくなった。

商船では、明治・大正期に 4 隻を見るのみで昭和期に入ってからは見られない。

図 4.1.4 は絵葉書専門店発行の大正 10 年 11 月に川崎神戸で進水した戦艦加賀(常備排水量 39,900 トン)のタウ付き 4 枚組多色刷記念絵葉書である。本艦はワシントン軍縮条約で廃艦となるが、航空母艦への改造を予定していた巡洋戦艦天城が関東大震災で大損害を受けたので、その代わりに横須賀海軍工廠で航空母艦として竣工した。

図左は、進水式に天皇陛下名代として台臨された伏見宮博恭王殿下の肖像を配し、背景に六甲の山並みとガントリー・クレーンに月桂樹の冠を戴き高く白鳩をかかげる女神を描く絵葉書。

中央はガントリー・クレーンの下で進水を待つ本艦と白山山頂に鎮座する加賀国一宮のしらやまひめ白山比咩神社の奥社の写真に、背景右上に日章旗、軍艦旗、左下に海軍大臣代理旗を描く絵葉書。本艦進水の時、海軍進水規則で命名書を読み上げる海軍大臣がワシントン軍縮条約交渉の全権として米国出張中のため、海軍次官が命名をしたために海軍大臣代理旗が描かれている。

右上は金沢の前田利家侯を祀る尾山神社の神門とガントリークレーンの下で進水を待つ本艦の写真に、背景に万国旗、艦隊、錨などを描く絵葉書。

右下は中央に本艦の完成予想図、右上に金沢城の石川門、左下に加賀安宅閣跡地の写真を配し、背景に進水式に因み薬玉と続命縷、進水斧を描く絵葉書である。



図 4.1.4 戦艦加賀の多色刷進水記念絵葉書
[絵葉書専門店発行]

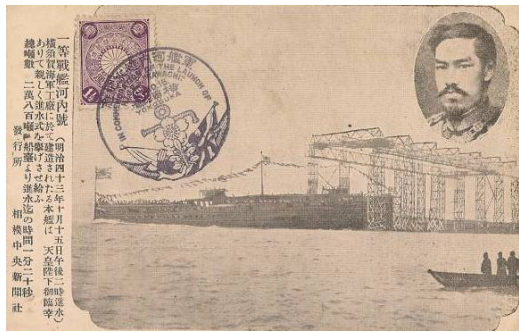


図 4.1.5 戦艦河内の写真版進水記念絵葉書
[絵葉書専門店発行]

絵葉書の右上は明治天皇の肖像である。絵葉書専門店の記念絵葉書では、進水式に台臨された天皇陛下やご名代の皇族、海軍高官の肖像を多く見かける。左上の大型丸印は国家の慶事して本進水式を祝う通信省が用意した特殊通信日付印である。左の文章は「一等戦艦河内号(明治四十三年十月十五日午後二時進水)横須賀海軍工廠において建造せられたる本艦は、天皇陛下ご臨幸ありて親しく進水式を上げさせ給う。総トン数二万八百トン(常備排水量トンの間違い)、船台より進水までの時間一分二十秒」、「発行所 相模中央新聞社」とある。

図 4.1.5 は明治 42 年 10 月に横須賀海軍工廠で進水した戦艦河内(常備排水量 20,832 トン)の進水記念絵葉書である。日露戦争では戦艦三笠をはじめ沿岸を航行区域とする艦艇で戦われたが、戦勝によってロシアの脅威がなくなると目は太平洋に向けられ航洋艦隊の整備が始まる。本艦はその第 1 艦として進水式に明治天皇の行幸を仰ぎ盛大に行われた。

絵葉書の右上は明治天皇の肖像である。絵葉書専門店の記念絵葉書では、進水式に台臨された天皇陛下やご名代の皇族、海軍高官の肖像を多く見かける。左上の大型丸印は国家の慶事して本進水式を祝う通信省が用意した特殊通信日付印である。左の文章は「一等戦艦河内号(明治四十三年十月十五日午後二時進水)横須賀海軍工廠において建造せられたる本艦は、天皇陛下ご臨幸ありて親しく進水式を上げさせ給う。総トン数二万八百トン(常備排水量トンの間違い)、船台より進水までの時間一分二十秒」、「発行所 相模中央新聞社」とある。

商船では、三菱長崎で明治 40 年 9 月に進水した太平洋航路大型客船天洋丸(13,454 総トン)で 2 社、同所で大正 2 年 1 月に進水した南米航路移民船安洋丸(9,534 総トン)で 1 社、同所で大正 3 年 3 月 29 日に進水した欧州航路貨客船諏訪丸(10,927 総トン)で 1 社が、また浅野造船所で大正 6 年 7 月に進水した貨物船白鹿丸(11,000 載貨重量トン)で 1 社が白黒の写真版進水記念絵葉書を発行した。いずれも造船所所在地の絵葉書専門店である。

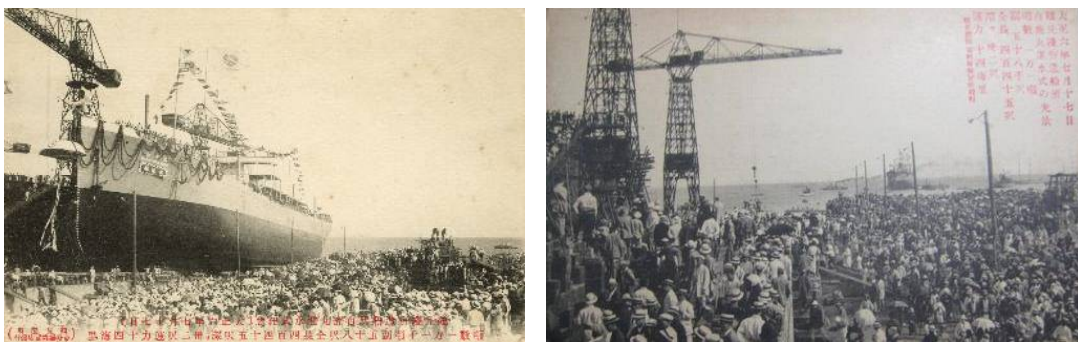


図 4.1.6 貨物船白鹿丸の写真版進水記念絵葉書
[絵葉書専門店]

図 4.1.6 は大正 6 年 7 月に浅野造船所で進水した上述の貨物船白鹿丸の 5 枚組写真版進水記念絵葉書の中の 2 枚である。本造船所は後の日本鋼管鶴見で第 1 次大戦の造船ブーム最中の大正 5 年 4 月に創業し、本船はその第 1 船として進水式が盛大に祝われた。5 枚とも多くの参観者に見守る中を巨体が滑り下り海上に浮かぶ写真で、「鶴見潮田 吉野家雑貨店発行」とある。

4.2 進水記念絵葉書の変遷

わが国には差し上げる品物を丁寧に包む文化がある。わが国の進水記念絵葉書では専用の包紙で絵葉書を包み、しかも包むだけでなく包紙にも絵葉書と同じ配慮が見られる。その包む方法や包紙は時と共に進化した。その進化の様相を時系列的に述べる。

「包む」のに先ず用いられたのは、図 3.2.1 戦艦薩摩の進水記念絵葉書の右に示した半透明・薄紙の専用封筒で、トレーシングペーパーを薄くしたやや硬い半透明の紙質で上辺に開口があって、明治期から大正期始めにかけて用いられた。



図 4.2.1 薄紙専用封筒の例

薄紙専用封筒の例を図 4.2.1 に示す。図左は明治 40 年 11 月に呉海軍工廠で進水した装甲巡洋艦伊吹の専用封筒で、戦艦薩摩と同じ紙質である。中央に「軍艦伊吹進水式記念」と印刷した淡黄色の薄紙全面に 0.05mm ピッチの細かい布目の型押しがしてある。

図中は大正 2 年 1 月に三菱長崎で進した南米航路大型客船安洋丸の専用封筒で、船主名、船種、船名に進水記念絵葉書と印刷した薄い半透明の黄褐色の紙である。お祝いに贈る産着に使われる「麻の葉」文様(一辺 10mm)〈麻のようにすくすく伸びよ〉を全面に型押ししてある。(図 4.2.2 参照)

図右は大正 4 年に川崎神戸で進水した北米航路貨客船布哇丸の専用封筒で、中央に船名と進水記念絵葉書、左下に造船所名を印刷し、淡い赤紅色で細かいピッチの布目が前面に型押ししてある。

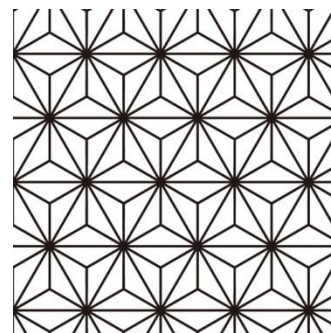


図 4.2.2 麻の葉文様

型押しの文様には細かいピッチの「青海波」文様〈穏やかな海、恵みをもたらす海への願い〉や、つる草に花や小鳥をあしらった西洋文様も見られる。色は灰白色ないし淡黄色が多い。

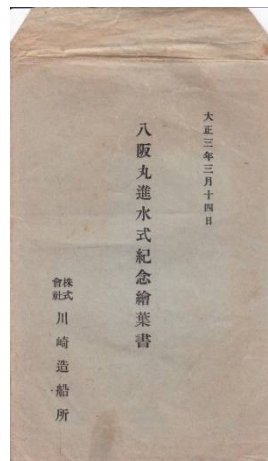
明治期末から薄紙が普通紙となって大正期にかけて用いられる。普通紙による進水記念絵葉書専用封筒の例を図 4.2.3 に示す。型押しはなくなる。

図左は大正3年3月に川崎神戸で進水した欧州航路貨客船八坂丸の普通紙専用封筒である。無地に薄紙専用封筒と同じように船名などを表記したものである。

やがて封筒の表^{おもて}にも現在まで続く「本船に関連する図案」を描くようになる。

図右はその早期の例で、大正5年5月に三菱長崎で進水した貨物

船山形丸の専用封筒で、船名の山形と進水月の5月に因んで「五月雨を集めて早し最上川」とその河畔で水面を見つめる白鷺を描いている。



三菱長崎造船所提供

図 4.2.3 普通紙専用封筒の例



三菱長崎造船所提供

図 4.2.4 タトウ A 方式の例

普通紙専用封筒に並行して文書の伝統的な包方である繪葉書を四方から包みこむタトウ A 方式が用いられるようになる。

図 4.2.4 は大正9年2月に三菱長崎で進水した巡洋艦たまのタトウ A を上げた状態を示すもので、中央に単色刷図案が印刷されている。この図案の裏に包む繪葉書を中央に置き、先ず包紙の下側を繪葉書の上に折り、次に上側を折り重ね、次いで両側を上重ねて折って包み込みを完了する。

やがてタトウ A 方式の四隅が欠いて包み易くしたタトウ B 方式に代わり、昭和期初めから第2次大戦にかけて海軍工廠と民間造船所の双方で多く用いられた。

図 4.2.5 は昭和11年12月に川崎神戸で進水した貨物船日吉丸のタトウ B の上げた状態を示す。タトウ A と比べると四隅が欠いてあるので包み易い。表紙中央の表題の右下に描いているのは、船名に因んで日吉大社の神猿の木像で「日吉神使出世猿」の朱印が押してある。

使用例は少ないが、昭和26年7月に三菱神戸で進水した貨物船麻耶春丸では多色刷の効果が高めるために紙質をケント紙にしてある。



図 4.2.5 タトウ B 方式の例



三菱長崎造船所提供

図 4.2.6 ポケット付ファイルの例

タトウB方式に並行して絵葉書を包むから挟むポケット付ファイル方式が登場し、昭和の初期から20年代後半にかけて用いられた。「包む」から「挿む」への大変革である。

図 4.2.6は昭和25年8月に三菱長崎で進水した貨物船平安丸の進水記念絵葉書で、赤の星印の部分がポケットになっていて、差し込まれた絵葉書が見える。

第2次大戦後の昭和20年代始めは造船が厳しく制限されていたが中頃から制限が徐々に緩み造船が再開されると、いろいろ包む方法が模索されユニークな包紙が作られた。

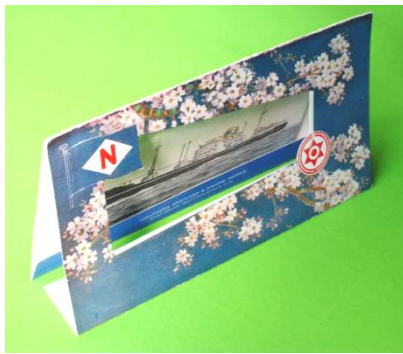


図 4.2.7 貨物船 Sakura の進水記念絵葉書

図 4.2.7は昭和25年5月に三菱横浜で進水した戦後最初の大型輸出船の中の一隻である貨物船 Sakura の進水記念絵葉書である。基本的には図 4.2.6 に示したポケット付ファイルであるが、表紙を大きく切りぬいて中の絵葉書に描かれた本船完成予想図を見えるようにしている。

左は包紙を半開きにして表側から見た図である。右は裏表紙である。進水の葉玉が大きく開き、風になびく五色のテープと紙吹雪を描いている。

図 4.2.8は昭和27年7月に浦賀で進水した貨物船永真丸の進水記念絵葉書である。二つ折りにしたケント紙2枚を紅白のリボンで綴じ、外側のケント紙が表紙となり、内側ケント紙の右側に完成予想図描く絵葉書を、左側に歌川広重が描く浮世絵日本湊尽「相州浦賀」の絵葉書を配す。



図の左はファイルを半開にしたもので奥の黄色



図 4.2.8 貨物船永伸丸の進水記念絵葉書

矢印が本船の完成予想図を描く絵葉書で、手前の青色矢印は図の右に示す浮世絵絵葉書の裏側である。この進水記念絵葉書のスタイルは浦賀の特徴で、昭和 25 年 3 月に進水した大型輸出船 Philippe L-D を最初に住友機械工業と合併する昭和 40 年代まで用いられた。



三菱長崎造船所提供
図 4.2.9 貨物船阿蘇丸の進水記念絵葉書

図 4.2.9 は昭和 25 年 8 月に三菱長崎で進水した高速貨物船阿蘇丸の進水記念絵葉書で、黄色矢印で示す完成予想図描く絵葉書は裏表紙に印刷されていて、絵葉書の周囲にミシン目が刻まれ切離すことが出来る。この型は今のところこの一例だけである。

図 4.2.10 は昭和 27 年 5 月に三菱長崎で進水した高速貨物船栗田丸の進水記念絵葉書である。図の左は半開きの状態を示し、青色矢印が表紙、紫色矢印

が裏表紙に糊付けされている絵葉書の耳紙、茶色矢印が額縁である。図の右は開いた状態を示し、額縁の中に完成予想図描く絵葉書が収まっている。



三菱長崎造船所提供
図 4.2.10 貨物船栗田丸の進水記念絵葉書

この方式は三菱長崎で昭和 26 年から 29 年にかけてと、名古屋造船で 29 年に使用例がある。

図 4.2.11 は昭和 32 年 3 月に東京石川島(後の IHI 東京)で進水した貨物船協泰丸の進水記念絵葉書である。図左に広げた状態を、図右は四つに折たたんだ状態を示す。広げた状態で寸法



365mm×252mm、裏面は白紙、紙質はケント紙である。上側半分の左が



図 4.2.11 貨物船協泰丸の進水記念絵葉書包紙

おもて表 表紙に右が裏表紙になり、下側半分は内側になって、左に本船要目表が印刷され、右の白紙の部分に絵葉書の四隅に当たる箇所に切込みを入れ絵葉書を留める仕組みになっている。この方式は東京石川島で昭和 30 年から 34 年頃にかけて用いられた。

昭和 20 年代後半に、完成予想図を描く絵葉書の左辺をミシン目を介して余分に伸ばした耳紙に、糊を付けて裏表紙に貼りつけ絵葉書を綴るブックレット方式が登場した。本方式では従来の本船に関連した絵葉書の図案が表 表紙に描かれ、絵葉書の方は省略された。表紙の紙質は普通紙からケント紙となり、三菱神戸のように絵葉書として使えるようにしたものもある。本方式は現在最も多く用いられている。

図 4.2.12 はブックレット方式の例で、昭和 39 年 2 月に名村で進水した木材運搬船瑞雲丸の進水記念絵葉書である。表紙は従来ならば本船に関連した絵葉書に描かれる搭載貨物に由来する図案化した南方産の巨木の断面を描き、2 頁目は本船の要目表、3 頁目は本船の完成予想図を描く絵葉書である。



図 4.2.12 ブックレット方式の例

包み方は 50 年の間に、述べてきたように当初の繊細な模様を型押しした半透明の専用封筒から普通紙の専用封筒、包む方式のタトウ方式、挿込む方式のポケット付ファイル方式、そして第 2 次大戦後の模索を経て現在の綴る方式のブックレット方式へと変わってきた。

贈る品物を丁寧に包むのはわが国の文化である。進水記念絵葉書を丁寧に包んだり、表紙を付けてブックレットにするのは世界に例がなくわが国だけの特徴である。

表 1 に上述した各包む方式の使用時期を示す。矢印の太さはその方式を適用した隻数の多寡を概念的に示したものである。

表 1 進水記念絵葉書を包む方方式の変遷

型 式	封 筒		タトウ		ポケット付 ファイル	各種 模索	ブックレット
	薄 紙	普通紙	A	B			
明治期	↓						
大正期		↑	↑	↑			
昭和初期				↓			
昭和20年代					↓	↑	
昭和30年 以降							↑

最近になって新しい方式が見られる。

図 4.2.13 の左は平成 14 年 2 月に三井玉野で進水したばら積貨物船 Maritime Jeongam の進水記念絵葉書である。3 枚横並びになっていて、1 枚目表 おもてが表紙で裏が本船の要目表、2 枚目が絵

葉書と同じ図案の白黒版写真、3枚目が本船の完成カラー写真の絵葉書でミシン目により切離されるようになっている。

図の右は平成21年6月に三井千葉で進水したばら積貨物船 Cape Britannia の命名・竣工記念絵葉書である。2枚横並び2つ折りになっていて、図の右が表紙で裏に本船の要目表、左が完成カラー写真の絵葉書で表紙とはミシン目により切離することができる。



図 4.2.13 ばら積貨物船 Maritime Jeongam(左)と Cape Britannia (右)の記念絵葉書

第5章 進水記念絵葉書の図案

わが国の進水記念絵葉書は美しい多色刷りが主である。これを鑑賞するのは庶民文化として江戸中期より始まった浮世絵鑑賞と通ずるものを感じる。

進水記念絵葉書の主流である造船所発行のものは、明治期から昭和20年代前半までは図3.2.1に見る多色刷りの完成予想図を描く絵葉書と本船に関連する図案を描く絵葉書に、封筒、タトウ、またはポケット付ファイルで構成されていた。昭和20年代後半に図4.2.12に見るブックレット方式になると、本船に関連する図案を描く絵葉書の図案はブックレットの表紙に描かれ、その絵葉書は省略されるようになった。

5.1 完成予想図を描く絵葉書

進水記念絵葉書で完成予想図を描くのはわが国だけの特徴である。進水式で来賓や参観者が船台上の本船を見て完成状態を思い浮かべ素晴らしさを知るのは難しく、図3.2.1に見るように油彩で画面一杯に描くことが望ましい。商船でも初期に少ないが例がある。

図5.1.1左は大正3年3月に三菱長崎で進水した欧州航路貨客船諏訪丸の、同右は大正4年5月に川崎神戸で進水した太平洋航路貨客船布哇丸の油彩による完成予想図を描く絵葉書である。



図 5.1.1 貨客船の完成予想図を画面一杯に描く絵葉書 [大正期の稀な例]

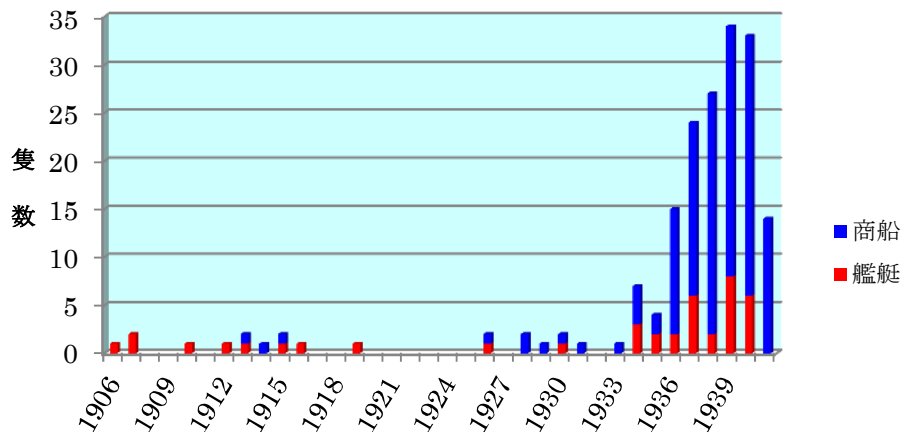


図5.1.2 完成予想図を多色刷で画面一杯に描いた絵葉書の発行状況

完成予想図を多色刷りで画面一杯に描いた絵葉書の発行状況を図 5.1.2 に示す。当時の石版印刷では色数が多いと印刷にコストと時間が掛かった。油彩で画面一杯に描く完成予想図の絵葉書が一般的となるのは、上図に見るように印刷技術が発達する昭和 10 年頃(1935)まで待たなければならなかった。

その間、印刷の易しさを意図して先行する姉妹船の完成写真の流用やペン画などが試みられたが普及せず、完成予想図を単色で絵葉書画面の数分の一に描き、余白は船名や進水に由来する図案や吉祥図案を描くのが多く見られる。

ペン画の例として図 5.1.3 に大正 8 年 11 月に呉海軍工廠で進水した戦艦長門の完成予想図を描く絵葉書を示す。



図 5.1.3 ペン画による戦艦長門の完成予想図を描く絵葉書 [大正期]

完成予想図を単色で画面の数分の一に描く例を示す。

図 5.1.4 左は大正 4 年 3 月に三菱長崎で進水したタービン貨物船富山丸の完成予想図を描く絵葉書である。船名と進水月に由来して富山・魚津の海に春に見られる蜃気楼に因んで、その伝説から大蛤の中に単色で完成予想図を描き、水平線に大蛤が吐いた蜃気に浮かぶ楼閣を描いている(三菱長崎造船所提供)。

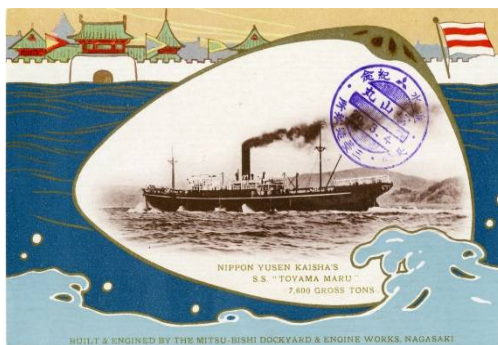


図 5.1.4 貨物船の完成予想図描く絵葉書 [明治期から昭和初期]

図 5.1.4 右は昭和 5 年 9 月に川崎神戸で進水したディーゼル貨物船良洋丸の完成予想図を描く絵葉書である。余白は上側遠方に本船が建造された川崎神戸の屹立するガントリークレーンと工場群を、手前に川崎神戸の社旗、薬玉の五色のテープなどの装飾図案を描いている。

昭和 10 年頃になると印刷技術の発達により、念願の完成予想図を油彩で画面一杯に描くのが一般的になる。図 5.1.5 左は昭和 11 年 12 月に川崎神戸で進水したタービン貨物船日吉丸の絵葉書である。画家は第 2 次大戦後も活躍された伊藤安次郎画伯である。

同じく図右は昭和 12 年 4 月に三井玉野で進水したディーゼル貨物船有馬山丸の絵葉書である。画家の署名は残念ながら読み取れない。

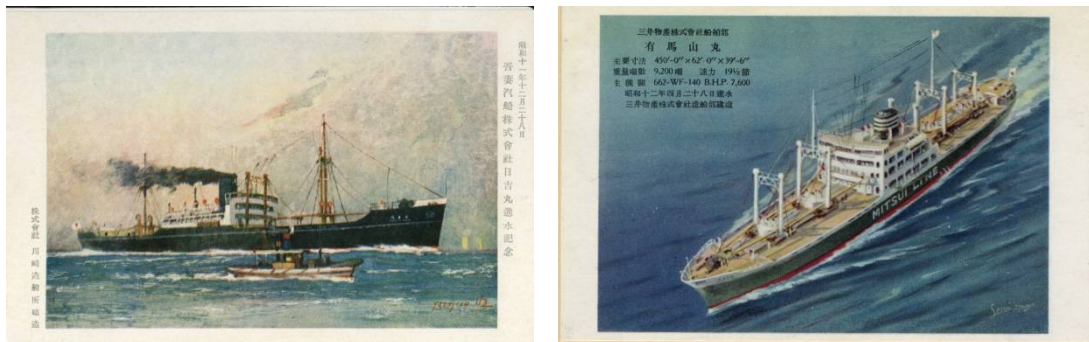


図 5.1.5 貨物船の完成予想図を描く絵葉書 [昭和 10 年代]

海軍艦艇は昭和 10 年頃から完成予想図を画面一杯に描くようになる一方で、完成予想図の代わりに側面図やシルエットを描くのも見るようになる。これが図 5.1.2 において艦艇の隻数が伸びない理由である。その例を示す。

図 5.1.6 左は昭和 9 年 11 月に横須賀海軍工廠で進水した巡洋艦鈴谷の絵葉書である。本艦のシルエットを中央下に北太平洋の地図を背景に描き、右上に艦名が樺太の鈴谷川に由来することから樺太神宮の大鳥居を描く。背景は進水月に因む白菊で、丸印は逓信省と工廠の進水記念印である。

図 5.1.6 右は昭和 11 年 11 月に呉海軍工廠で進水した水上機母艦千歳の絵葉書である。絵葉書の中央手前に明治 31 年に米国で建造された巡洋艦千歳の側面図を、その背後に本艦のシルエットを描き、左に大きく搭載機を描く。斧の形の異形印(朱色)は工廠の進水記念印である。

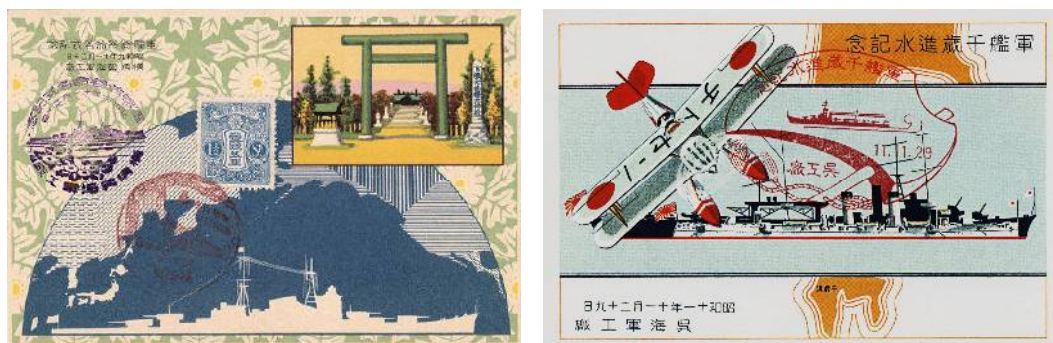


図 5.1.6 艦艇の側面図・シルエットを描く絵葉書 [昭和 10 年前後]

昭和 11 年末に軍縮条約が破棄され、昭和 12 年度から戦艦大和、武蔵を含む艦艇 70 隻を建造する五ヵ年計画の第三次補充計画が始まり、さらに昭和 14 年度から大和級戦艦 2 隻を含む 80 隻を建造する第四次補充計画が実行された。その頃から防諜の観点もあって正確な完成予想図を描くことは規制されるようになった。

その結果、昭和 12・13 年頃から艦艇の完成予想図を描く絵葉書は次のように変わり、商船とは異なるものとなった。

- ①昭和 10 年以前のように画面より小さく描き余白を関連する図案とする。
- ②画面一杯に描いても配置の詳細は判らないものにする。
- ③完成予想図を止めて関連する図案とする。

図 5.1.7 左上段は昭和 12 年 4 月に舞鶴海軍工廠で進水した駆逐艦大潮の絵葉書で、軍縮条約破棄を見越して、速力、凌波性、航続力の向上を意図した新設計艦である。逆巻く怒涛を突き進む本艦を描く。図左中段は同 14 年 3 月に佐世保海軍工廠で進水した駆逐艦雪風の完成予想図を描く絵葉書である。艦名に由来して降りしきる雪の中を航走する本艦を抒情的に描く。図左下段は、



同 15 年 8 月に三井玉野で進水した海防艦石垣の絵葉書で、第三次補充計画で新しく設計された新艦種である。モダン・アートの手法で、艦首側面を描く。これらの絵葉書からは新型艦の兵装やその配置など全く分からない。



図右下は同年 11 月に川崎神戸で進水した航空母艦瑞鶴の絵葉書である。本艦は姉妹艦翔鶴と共に第三次補充計画で大和級戦艦に次ぐ目玉で機密性が高かった。絵葉書右下の「軍艦瑞徳進水記念」から艦名は判るがこの図案からは艦種も艦容も判らない。

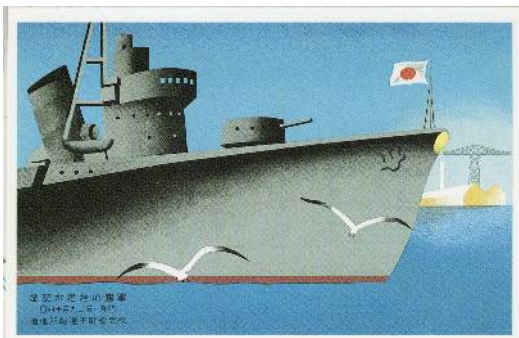


図 5.1.7 艦艇の正確な完成予想図を規制された絵葉書 [昭和 12~17 年]

昭和 27 年、サンフランシスコ講和条約発効で占領軍司令部の厳しい制約から造船も解き放たれた。図 5.1.8 にその時期の、同じ大きさの貨物船完成予想図を描く絵葉書 4 枚を示す。

図左上は伊藤安次郎画伯(前出)が描く昭和 28 年 10 月に三井玉野で進水した貨物船榛名山丸、図右上は大久保一郎画伯が描く昭和 29 年 3 月に川崎神戸で進水した貨物船祥川丸、図左下は山高五郎画伯が描く昭和 31 年 10 月に三菱神戸で進水した貨物船もんでびでお丸の絵葉書である。これらの三画伯は昭和 20 年代から 40 年代にかけて多くの造船所の完成予想図を描き有名である。図右下は昭和 30 年代に三菱長崎の完成予想図を多く描いた松添健画伯が描く昭和 33 年 7 月に三菱長崎で進水した貨物船島根丸の絵葉書である。



図 5.1.8 有名四画伯による 10,000 トン級貨物船の完成予想図競作

この 4 枚の完成予想図を見比べるとそれぞれに画伯の個性が見えて興味深い。これはわが国の全ての進水記念絵葉書に共通するもので魅力の根源である。

完成予想図は絵画としての美しさと正確な姿が求められる。三次元設計支援システムなどが無い時代に、進水の時点で一般配置図などの平面図から本船の完成した姿を描くには、図面を読む能力と船についての深い造詣が求められる。海洋画家として名を成した方でも描く方は少なく、造船所に勤務した方や、造船所在職の方が多い。

因みに、伊藤安次郎画伯と山高五郎画伯はそれぞれ川崎神戸と三菱長崎の勤務経験があり、大久保一郎画伯は大阪商船専属画家として、松添健画伯は海洋画家としても有名な方である。

昭和 30 年代半ばから従来の船種に代わる新しい船種が登場し始め、いろいろな船種や大きさの船の多様な船容を楽しむことが出来る。一方で近年の同型船建造の増加は完成予想図の代わりに平成 10 年頃から姉妹船の完成写真流用をもたらすようになった。

5.2 本船に関連する図案を描く絵葉書

昭和10年前後までは、主題に本船建造について特筆すべき技術的なものを取り上げ、その写真などを絵葉書の約半分の面積で示し、背景に船名に因む良く知られた物語・俳句・短歌・進水月や進水式、就航航路などに由来する図案や伝統の装飾文様を描いている。



図 5.2.1 建造中の本船を主題とする絵葉書 [商船]

主題の中では建造中の本船が一番多い。海軍艦艇では前述の明治39年11月に進水した戦艦薩摩が最初であるが、商船での初見は、図5.2.1左に示す明治44年1月に三菱長崎で進水した北米航路貨客船かなだ丸(6,064総トン)である。1枚組の進水記念絵葉書で完成予想図を中央に、進水式で船台を滑り降りる本船を左上に、船台を離れんとする本船を右下に配している。

建造中の本船のみを主題とした初見は、図5.2.1右に示す大正3年3月に同所で進水した欧州航路大型貨客船諏訪丸(10,927総トン)の絵葉書である。船台上で建造中の本船を単色で右上に描き、背景は諏訪大社の境内から諏訪湖を望む眺めを描いている。

両船とも当時の建造船としてずば抜けた大きさと、建造そのものが技術な問題であり誇りであったが、その後は中型船にまで広がり昭和初期まで見られる。船を設計し建造することの難しさを物語っている。

図5.2.2は蒸気タービンを主題にした絵葉書である。図左は明治40年12月に三菱長崎で進水した太平洋航路大型客船天洋丸級第2船地洋丸の絵葉書である。世界最大級出力のパーソンズ式輸入蒸気タービン1基、直結、19,000馬力を搭載し、高圧タービンで中央プロペラ軸を、低圧タービンで両舷プロペラ軸を直結駆動した。図の左に本船の特徴ある船尾を描き、右の丸窓に本船



図 5.2.2 蒸気タービンを主題とする絵葉書

航路を描く。わが国が建造した最初のタービン船である。図右は明治 44 年 6 月に川崎神戸で進水した巡洋艦平戸の絵葉書である。左の円内に工場で製造中のカーチス式蒸気タービン 2 基が描かれている。直結、11,250 馬力 2 基、プロペラ 2 軸である。背景は進水する本艦を描く。

ガントリー・クレーンは大艦巨船建造能力のシンボルであり当時最先端の造船設備であった。横須賀海軍工廠のガントリー・クレーンは、戦艦薩摩の進水直後に建設を始め明治 41 年に完成したが、翌年に戦艦河内の建造のために船台と共に 80ft(24.38m) 延長し大正元年に戦艦比叟も進水するが、急速な戦艦の大型化に対処するため急遽解体して佐世保海軍工廠に移設し、大正 2 年に新ガントリー・クレーンを英国から輸入して三菱長崎が全体組立を請負い建設し直した。

図 5.2.3 左は大正 4 年 11 月に横須賀海軍工廠で進水した戦艦山城の絵葉書で、中央にガントリー・クレーンの下で建造中の本艦を主題とし、背景に進水月に因む大輪の黄菊、軍艦旗、太平洋の大波などを配した。そこに苦勞させられたガントリー・クレーンの物語がある。



図 5.2.3 ガントリー・クレーンとディーゼル機関を主題とする絵葉書

図 5.2.3 右はディーゼル機関が主題の昭和 12 年 4 月に三井玉野で進水したニューヨーク航路貨物船有馬山丸の絵葉書である。第 1 次大戦後、不況克服のための燃費節減の一環としてディーゼル機関の技術導入・国産化や蒸気機関やボイラーの改良などが積極的に行われた。絵葉書の右に当造船所が誇る最新鋭の B&W 6 気筒 2 サイクル複動無気噴油式 DM662-WF-140 型：計画出力 7,600 馬力のディーゼル機関を描き、背景にニューヨークの摩天楼を描く。

昭和 10 年代になり主題にする技術的な話題が一段落すると、本船に関連して、船名、航路、用途、進水などに由来する図案を画面一杯に描くことが多くなる。次にその例を示す。

図 5.2.4 左上は昭和 9 年 9 月に浦賀で進水した朝鮮郵船(株)むけ貨客船盛京丸の絵葉書である。本船が就航する朝鮮半島とわが国本土の間の航路を描く。

図右上は昭和 12 年 3 月に川崎神戸で進水したタービン貨物船藤影丸の絵葉書である。本船船名に因み藤の名所として知られる東京亀戸天神境内の藤の花を描き、下方に本船要目を記述す。

図左下は昭和 12 年 5 月に大阪鉄工で進水した捕鯨母船第二図南丸の絵葉書で、南極海における本船、漂う冰山、鯨の巨大な尾などを図案化して描く。

図右下は昭和 16 年 4 月に播磨で進水した平時標準船 C 型貨物船金耶摩山丸の絵葉書で、進水式で薬玉が割れ五色のテープが舞い紙吹雪の中を飛ぶ鳩、船主旗、進水月に因む桜花を描く。



図 5.2.4 船名、航路、用途、進水式などに由来する図案などを描く絵葉書 [商船]

海軍艦艇でも建造中の本艦を主題にする絵葉書を多く見られる。図 5.2.5 に例を示す。

図左は昭和 2 年 4 月に横須賀海軍工廠で進水した巡洋艦妙高(基準排水量 10,160 トン)の絵葉書である。図 5.2.3 左に示したガントリー・クレーンの下で建造中の本艦を主題に中央に配し、背景に薬玉、満艦飾、跳ねる鯉を描いている。図右は昭和 3 年 11 月に佐世保海軍工廠で進水した駆逐艦浦波(基準排水量 1,750 トン)の絵葉書で、主題は進水する本艦である。背景は進水式の支綱、薬玉の続命縷、進水月に因む紅葉と菊花を描いている。

戦闘艦の場合は国家の慶事として、商船と比較するとこのような小型船まで進水記念絵葉書が作られて祝われ、一方で建造することの難しさを語っている。



図 5.2.5 建造中の本艦を主題とする絵葉書 [艦艇]

昭和 10 年前後から商船と同じように本艦に関連して、艦名、航路、用途、進水などに由来する図案を画面一杯に描くことが多くなる。海軍工廠では絵葉書一枚の図案を工廠内で図案が公募したので伝統文様にとられない斬新な図案が見られる。図 5.2.6 に例を示す。



図 5.2.6 船名、用途、進水式などに由来する図案などを描く絵葉書〔艦艇〕

図左は昭和 9 年 5 月に舞鶴海軍工廠で進水した駆逐艦夕暮の絵葉書で、中央に新月の下で夕闇に溶け込もうとする本艦の艦影を描き、周りに進水月 5 月を象徴する葉桜と杜若を描く。

図中央は昭和 10 年 12 月に呉海軍工廠で進水した航空母艦蒼龍の絵葉書で、薬玉に続命縷と白鳩を大きくあしらい艦首まで伸びた飛行甲板を強調し赤とんぼも描く。

図右は昭和 13 年 6 月に佐世保海軍工廠で進水した工作艦明石の絵葉書で、昇る朝日を背景に本艦のシルエット、その前面に初代明石(三等巡洋艦、明治 30 年 11 月に横須賀海軍工廠で進水)の白抜きシルエット、中央の左上の枠の中には柿本人麻呂の座像と彼の詠む「ほのぼのとあかしの浦の朝ぎりに島が暮れゆく舟をしぞ思ふ」を、中央には新・旧の明石の要目を記述している。

昭和 12 年に入り、昭和 12 年 7 月に盧溝橋事件、8 月に第 2 次上海事件が起こり日中全面戦争の気配が濃厚になると、時勢を反映したものが見られる。図 5.2.7 に例を示す。



図 5.2.7 時局を反映した進水記念絵葉書〔艦艇〕

軍の激しい攻撃から日本居留民を護った。図は手前に歩哨に立つ陸戦隊員、背後に砲煙の中を進む本艦を描く。図右は昭和 14 年 2 月に藤永田で進水した駆逐艦夏潮の記念絵葉書である。現在、中国と周辺諸国が領有権を争っている南沙諸島を、わが国は昭和 13 年に領有を宣言し新南群島と命名したのを反映した図案である。



図 5.2.8 造船所を描く絵葉書

第 2 次大戦が終わって占領軍司令部の厳しい制約の中で造船が再開されると、造船所の健在ぶりを内外に示す図案が本船の関連する図案として、播磨、日本海船渠、日立桜島、三井玉野、三菱長崎、三菱横浜、三菱神戸、三菱広島、三菱下関などの絵葉書で見られる。図 5.2.8 は、昭和 24 年 6 月 28 日に三菱下関で進水した貨物船長有丸の絵葉書である。

5.3 ブックレットの表紙

ブックレット方式の表紙は、ファイル方式の表紙と 5.2.項で述べた昭和 10 年代以降の本船に関連する図案を描く絵葉書と合体したものになって、図案はその絵葉書と変わらないがより洗練されたものになっている。例として、船名や用途に由来する図案と純粋な図案・写真によるものを挙げる。

図 5.3.1 は船名に由来する図案を描く例である。図上左は昭和 37 年 6 月に三菱神戸で進水した見本市船さくら丸の表紙で満開の桜花が華やかに描かれている。図右上は昭和 60 年 8 月に日立



図 5.3.1 船名に由来する図案の表紙

舞鶴で進水した重量物運搬船あるぷす丸の表紙で日本アルプスを描く。図下は平成 18 年 8 月に三菱長崎で進水したイージス護衛艦あしがらの表紙で熊と相撲を取る金時さんを描く。

図 5.3.2 は本船用途に由来する図案を描く例で、図左は昭和 42 年 6 月に藤永田で進水した北洋水産(株)向けで船尾トロール船第二鴻洋丸の表紙で、対象のスケソウダラ、オヒョウ、カニを描く。図右は昭和 51 年 1 月に三菱下関で進水した物理探査船開洋丸の表紙で、探査作業により得られたデータを電算処理して作成された海底面下の地質断面構造図を描いている。

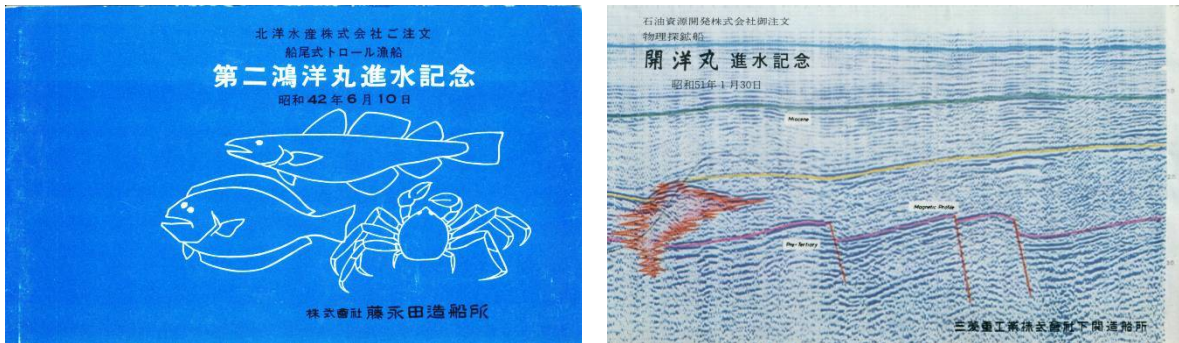


図 5.3.2 用途に由来する図案を描く表紙

近年はイラストレーション分野の発達による純粋な図案や写真を用いることも多い。

図 5.3.3 左は平成 14 年 2 月に三井玉野で進水したパナマックス型ばら積貨物船 Maritime Jeongam の表紙で、近年の純粋図案の例である。同図右は平成 25 年 12 月に川崎神戸で進水したパナマックス型ばら積貨物船 Orient Iris の表紙で、山手から神戸の港を俯瞰した写真の例である。手前の高層ビル群の向こうに、メリケン・パークのポートタワーや神戸海洋博物館が、その向うには本船が建造された船台やクレーンが見て取れる。

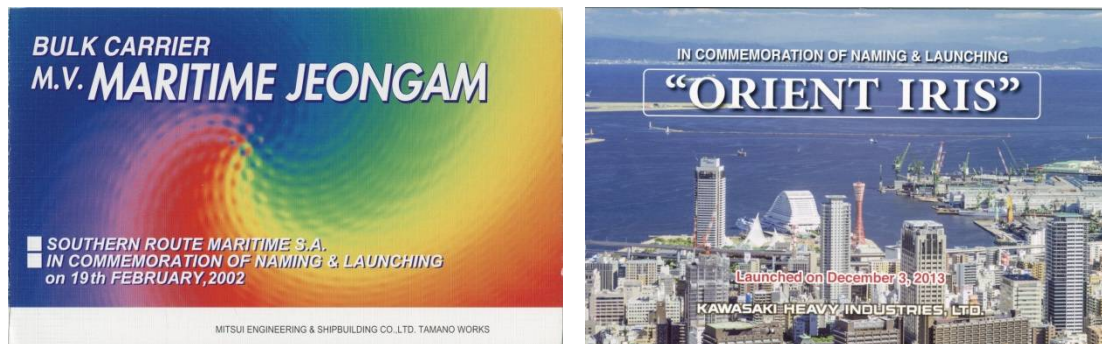


図 5.3.3 純粋図案や写真が適用された表紙

第6章 命名・竣工記念絵葉書

昭和40年代になると次々に建造ドックが築造されて大型船のドック建造が始まった。ドック建造の場合は進水式は省略されて竣工引渡時に命名・竣工式が行われることが多く、進水記念絵葉書と全く同じスタイルの命名・竣工記念絵葉書が発行されている。

ブックレット表紙の図案は進水記念絵葉書と同じであるが、近年のイラストレーションやデザインの発達を受けて抽象的な図案が多くなった。

図6.1.1にその例を挙げる。図左上は平成3年11月に川崎坂出で命名されたケープサイズばら積船Yamatoの、図右上は平成4年1月に鋼管津で命名されたVLCC Helios Breezeの、図中段は平成3年3月に日立有明で命名されたVLCC Bloom Lakeの、図左下は平成14年12月に住重追浜で命名・竣工したアフラマックスサイズ砕氷タンカーMasteraの、図右下は平成21年6月に三井千葉で命名・竣工したケープサイズばら積船Cape Britanniaの表紙である。

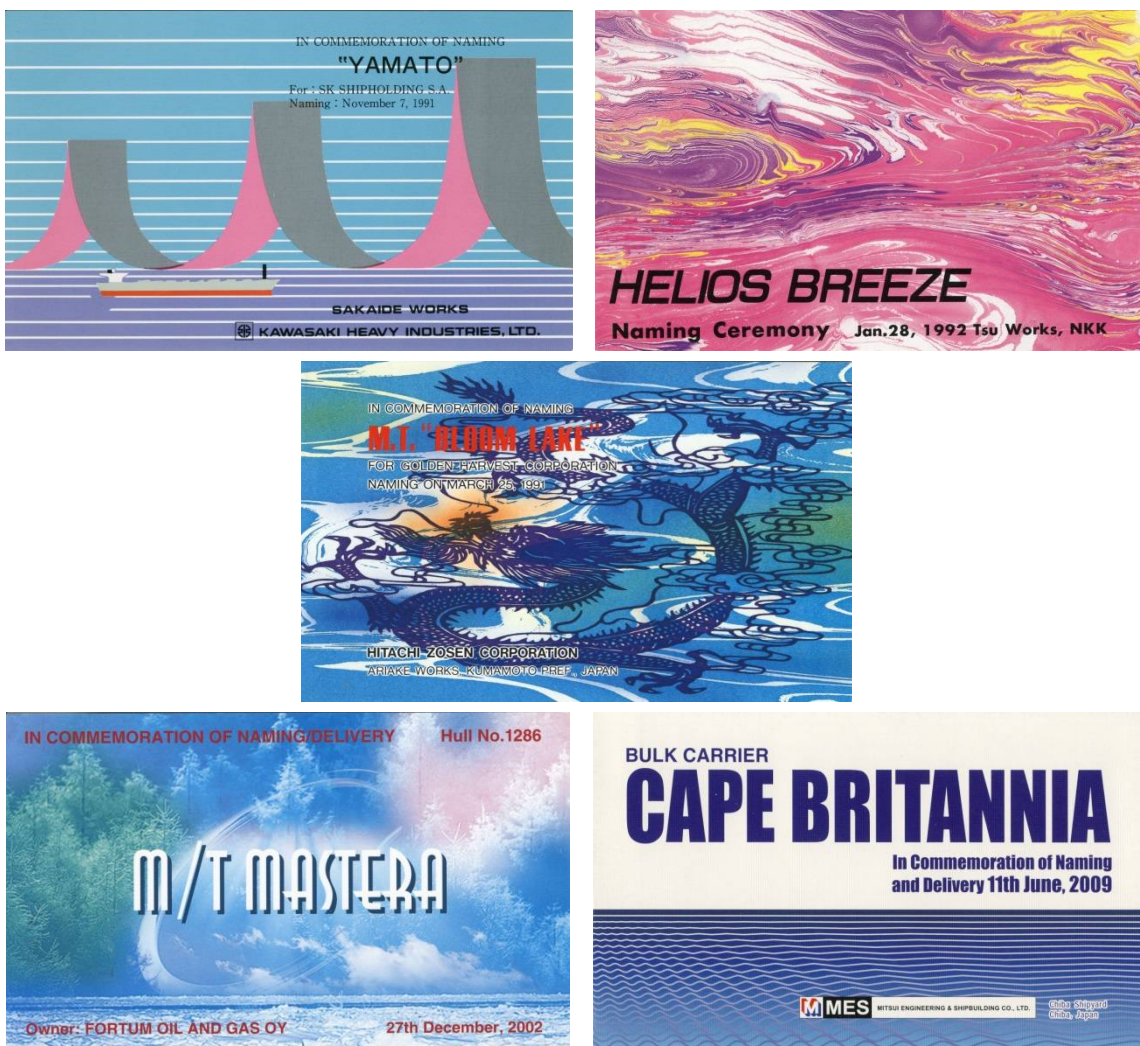


図6.1.1 命名・竣工記念絵葉書の表紙

命名・竣工記念絵葉書では、命名・竣工式の時点で本船は完成しているので完成予想図を描く絵葉書ではなく完成状態の絵葉書である。ドック建造が始まった最初の頃は進水記念絵葉書と同じように油彩で航走する船容を描いていたが、商船では昭和 50 年頃から完成写真を使用した絵葉書を見るようになり、平成期に入ると全てが完成写真の絵葉書となった。

建造ドックが竣工してから完成写真に代わるまでの期間をみると、住重追浜、三井千葉、日立有明などは約 10 年、三菱長崎は香焼工場は約 25 年、川崎坂出は約 30 年と造船所によって違いがある。完成写真は記念絵葉書とは関係なく造船所の記録として、命名・竣工式の前行われる海上公式試運転で塗装も新しく航走する本船を撮るのが通例である。コスト削減が厳しい商船では完成予想図に代わって完成航走写真の利用を考えるのは当然の成り行きであろう。

結 び

わが国の進水式で頒布される進水記念絵葉書は、慶びの良き日に自祝いの気持ちを込めたささやかな品を関係者に配り喜びを分かち合う文化から生まれた。

その特徴は、画家による完成予想図を描く多色刷の絵葉書と、船名に因む良く知られた物語・俳句・短歌、就航航路、ミッションなどに由来する図案や伝統的な文様などをユニークな構図や図柄で描く多色刷の絵葉書や表紙で構成され、それを造船所が進水式で頒布して 110 年の歴史を刻んできた。

このような進水記念絵葉書は世界に例がなく、わが国の独特の進水文化として、人々に愛でられ「掌中の玩」として大切にされ鑑賞されている。また絵葉書からは造船技術の進歩や海運・造船界の動向が垣間見えるのも興味深い。

謝 辞

本論作成に当たって、次の方々にご指導・ご支援を頂きました。

造船保存委員会の内藤委員長、藤村委員長代理、石津委員他各委員の各位

三菱長崎造船所史料館横川館長、神戸大学海事博物館、JMU アムテック史料室、

三菱長崎艦艇部 OB 太田穰治、下関造船所総務課藤原主席部員の各位、

他にも多くの方々から資料の提供、調査の協力を頂きました。ここに厚く御礼を申し上げます。

以上